

## 第14回

# 吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会

## 議事次第

日時：平成23年12月6日（火）

13：00～15：00

場所：上北山村振興センター

（奈良県吉野郡上北山村河合）

### 1. 挨拶

### 2. 議事

（1）平成23年度西大台利用調整地区の運用結果について

（2）平成24年度西大台利用調整地区の運用計画（案）について

### 3. その他

## 第14回吉野熊野国立公園西大台地区 利用適正化計画検討協議会

### 出席者名簿

#### <自然環境等に関する専門家・研究者>

田村 義彦	大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長
長嶋 俊介	鹿児島大学国際島嶼教育研究センター 教授
西田 正憲	奈良県立大学 教授
日比 伸子	特定非営利活動法人 西日本自然史系博物館ネットワーク
村上 興正	元京都大学 講師
横田 岳人	龍谷大学 准教授

#### <関係行政機関>

奈良県地域振興部南部振興課	(ご欠席)
奈良県くらし創造部自然環境課	山中 崇史 課長補佐
三重県環境森林部自然環境室	松岡 直 副参事兼副室長
上北山村建設産業課	福本 清 課長 遠藤 学 主幹
川上村地域振興課	杉村 佳隆 主事
大台町産業課	(ご欠席)

<関係団体等>

上北山村議会経済常任委員会	新谷 五男 委員長
上北山村観光協会 上北山村区長会	更谷 昌美 会長
上北山村漁業協同組合	金山 進英 組合長
上北山村商工会	中谷 守孝 会長 金岩 修平 経営指導員
(財) グリーンパークかわかみ	(ご欠席)
大杉谷自然学校	(ご欠席)
山岳ガイドクラブ 北山いこら	(ご欠席)
奈良県勤労者山岳連盟	由良 行基周 自然保護委員長
奈良県山岳連盟	野田 健司 理事・自然保護委員
奈良県タクシー協会	(ご欠席)
奈良交通(株)吉野営業所	松尾 茂 所長 西本 忠弘 助役
(社) 日本山岳会関西支部	斧田 一陽 自然保護委員長
特定非営利活動法人 森と人のネットワーク・奈良	(ご欠席)
大台ヶ原パークボランティアの会	(ご欠席)
ワーク21上北山	福嶋 啓一 会長
吉野きたやま森林組合	森岡 哲也 参事
一般社団法人 心湯治館	城内 勲 代表理事

<事務局>

近畿地方環境事務所	河原 武 統括自然保護企画官 藤井 好太郎 国立公園・保全整備課長 高橋 誠 公園計画専門官 坪倉 真 用地・国有財産専門官
吉野自然保護官事務所	七目木 修一 自然保護官 青谷 咲子 自然保護官補佐
(株)スペースビジョン 研究所	宮前 保子 安場 浩一郎 幡 建樹

## 配布資料一覧

- 議事次第
- 出席者名簿
- 配席表

資料 1 平成 23 年度西大台利用調整地区の運用結果概要

資料 2 平成 24 年度西大台利用調整地区の運用計画（案）

参考資料 1 大台ヶ原の利用動向

参考資料 2 平成 23 年度西大台利用調整地区の利用実態等

参考資料 3 利用者意識等に関するアンケート調査結果

参考資料 4 吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画

参考資料 5 第 13 回吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討  
協議会議事概要

## 平成 23 年度西大台利用調整地区の運用結果概要

**1. 利用調整の概要****(1) 利用調整を行った期間**

平成 23 年 4 月 22 日（金）から 11 月 30 日（水）まで（223 日間）

※県道大台ヶ原公園川上線（大台ヶ原ドライブウェイ）の開通期間。

この期間は事前に申請をして認定を受けた者のみ西大台への立入りが可能。

**(2) 1 日あたりの立入り可能な人数の上限**

・利用集中期の土日祝日 : 100人

・利用集中期の平日、利用集中期以外の土日祝日 : 50人

・上記以外の平日 : 30人

※利用調整地区内での行動は 1 グループ 10 人以内。

**(3) 利用集中期（カレンダー参照）**

過去の利用実態に基づき、以下の期間を利用集中期として設定（計 110 日）。

・春期：平成 23 年 4 月 23 日（土）から 6 月 19 日（日）まで

・夏期：平成 23 年 8 月 6 日（土）から 8 月 15 日（月）まで

・秋期：平成 23 年 9 月 23 日（金・祝）から 11 月 3 日（木・祝）まで

**〔平成 23 年度からの変更点〕**

- ・平成 22 年度のモニタリング結果等を踏まえ、平成 23 年度については、春期の利用集中期を延長し、6 月 1 日から 6 月 19 日までの期間も利用集中期とした。

**(4) 立入認定事務**

上北山村商工会が、指定認定機関として、以下の立入認定事務を行った。平成 23 年度の立入については、平成 23 年 1 月 24 日（月）から受付を開始した。

①事前電話予約の受付（立入希望日の 3 ヶ月前～）

②インターネットによる事前予約の受付および予約状況に関する情報提供

③申請書の接受（立入希望日の 5 日前まで）

④申請書に係る審査、認定証の発行、申請者への認定証等の郵送

**〔平成 23 年度からの変更点〕****○立入認定申請におけるインターネットの活用：**

インターネットによる事前予約の受付および予約状況に関する情報提供を開始した。

**○事務手数料の変更：**

子ども手数料（500 円）の設定を行い、平成 23 年度から運用を開始した。

## (5) 事前レクチャー

実施期間：平成 23 年 4 月 22 日（金）から 11 月 30 日（水）まで

実施場所：大台ヶ原ビジターセンター レクチャールーム

実施者：環境省（請負事業者含む）

時間割：次表のとおり。

### <事前レクチャー時間割>

	利用集中期の平日・ 通常期のすべての日	利用集中期の土日祝日
①	無し	7：30～8：00
②	8：30～9：00	8：30～9：00
③	9：30～10：00	9：30～10：00
④	10：30～11：00	10：30～11：00
⑤	11：30～12：00	11：30～12：00
⑥	16：00～16：30	16：00～16：30

## (6) 巡視

実施期間：平成 23 年 4 月 22 日（金）から 11 月 30 日（水）まで毎日

実施者：自然保護官及びアクティブレングジャーなど環境省職員による巡視の他、環境省の巡視業務を請け負った者が職員の指示のもと複数人数で実施。

## (7) モニタリング

利用調整の効果について評価を行う際の基礎資料を得るため、以下の事項について継続的に調査（モニタリング調査）を行っている。

### <モニタリング調査項目>

- ・自然環境の状態に関する事項：植物相、動物相調査
- ・利用の在り方に関する事項：利用実態、利用者意識、歩道の状態に関する調査

調査結果は大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会の森林生態系部会及び利用対策部会で評価を行い、評価結果を次回協議会（平成 24 年 2 月開催予定）で報告するとともに、ホームページにより公表する。

## (8) 普及啓発

西大台利用調整地区の制度について、昨年度に引き続き、報道機関への情報提供・取材協力、ホームページや広報資料の配布等により、幅広い普及啓発を実施した。

また、平成 21、22 年度に引き続き、京都御苑における大台ヶ原に関する展示や講演会を実施した（10/7～11/6）。

なお、普及啓発に当たっては、東大台地区が利用調整の対象外であることや、インターネットによる事前予約の開始、子ども手数料の新設などの西大台利用調整地区に関する制度の変更等についても、あわせて周知した。

### (9) 自然ふれあいプログラムの提供等

西大台利用者の安全確保と自然観察等に関するインタープリテーションの能力を有するガイドを育成し、西大台における質の高い利用の推進に寄与することを目的として、地域のガイド関係者等を対象とした2回の勉強会を開催した。

第1回勉強会では、昨年度に作成した「西大台ガイドのためのテキスト」に基づいて、西大台の自然環境等に関するレクチャーを実施した。第2回は、西大台現地において、インタープリテーションの技法等に関する実習を行った。参加者は、第1回が20名、第2回が14名であった。

## 2. 平成23年度大台ヶ原の利用状況（中間報告）

平成23年4月21日から10月31日までの大台ヶ原ビジターセンターの調査データを集計した。

- ・ 駐車台数から推計式を用いて算出した利用者数は、平成23年10月31日現在で103,381人であった(平成22年度(通年):157,334人、平成21年度(通年):154,310人)。
- ・ 平成20~22年の調査に基づく新たな推計式を用いて算出した利用者数は、10月31日現在で53,432人であった(平成22年度(通年):81,615人)。
- ・ 月別では、10月の利用者数が最も多く、次いで5月、8月、7月の順であった。
- ・ 曜日別の利用者数の割合は、平日が46.0%、休日が54.0%であった(平成22年度(通年):平日40.5%、休日59.5%)。
- ・ 最も利用者数が多かったのは、7月17日(日)の3,011人であった(平成22年度(通年):10月23日(土)、5,602人)。
- ・ 車両駐車台数では、観光バスが計233台、乗用車計10,561台、二輪車計1,671台であった(平成22年度(通年):観光バス417台、乗用車16,042台、二輪車1,687台)。

## 3. 西大台利用調整地区の利用実態（中間報告）

### (1) 立入認定者数

平成23年4月22日から11月30日までの西大台利用調整地区の認定者数等について集計した。

- ・ 期間中の延べ認定者数は2,062人であった(平成22年度:1,708人)。
- ・ 立入をキャンセルした人を除く推定立入人数は計1,666人であった(平成22年度:1,535人)。
- ・ 上限人数に対する認定者の比率は、利用集中期の土日祝日では24.7%、利用集中期の平日及び利用集中期以外の土日祝日では15.7%、それら以外の平日では10.3%であった(平成22年度:利用集中期の土日祝日17.4%、利用集中期の平日及び利用集中期以外の土日祝日19.4%、それら以外の平日6.8%)。

## (2) 巡視及び違反者等への指導状況

利用調整期間中、毎日巡視を実施し、無認定立入者への指導等を行った。

- ・ 10 月末現在までの無認定の立入者への指導件数・人数、及び無認定立入の未然防止件数・人数は、平成 22 年度の同時期とほぼ同様であった。
- ・ 10 月末現在、無認定の立入者計 5 件・延べ 7 人を確認し、西大台利用調整地区からの退出等を指導した（平成 22 年度 10 月末現在：計 6 件・延べ 10 人）。
- ・ 無認定で立入ろうとした者計 15 件・延べ 25 人に対し、利用調整地区の入口で注意するなどして違反の未然防止を行った（平成 22 年度 10 月末現在：計 20 件・延べ 35 人）。

## 4. モニタリング調査結果（中間報告）

---

### (1) 利用者意識等に関するアンケート調査結果

西大台利用調整地区の立入認定者のうち、事前レクチャーの受講者に対して、事前レクチャーや西大台の利用に関するアンケートを実施し、集計した。回収数は、10 月末現在で、350 票である。

- ・ 交通手段については、昨年度は、団体ツアーの増加によって観光バスの割合が高くなり、4 割程度を占めたが、本年度は 1 割強であった。
- ・ 居住地についても、昨年度は、愛知県からの団体ツアー増加にともない、愛知県が最も多かったが、本年度は大阪府が最も多かった。
- ・ 登山経験については、「本格的な登山経験あり」が 5 割弱を占め、「里山の散策・トレッキング程度」が 3 割強、「ガイドなど引率者の下での登山」が 1 割強、「ほとんどない」が 1 割未満であった。
- ・ 団体ツアー・個人の別については、個人が 8 割強を占め、団体ツアーは 2 割弱であった。
- ・ 事前レクチャーの満足度に関しては、「長さ」については、7 割以上が「ちょうどよい」と回答した。「内容」については、「満足」が 6 割以上を占めたが、「普通」も 2 割程度あった。「冊子」については、「満足」が 7 割以上を占めた。
- ・ 西大台における行動については、西大台歩道を 1 周する利用者の割合が、昨年度よりも増加し、9 割程度を占めた。
- ・ ガイドの有無については、8 割以上が「ガイドは付けなかった」と回答しており、「専門的な登山ガイド等を付けた」とした人が 1 割程度であった。
- ・ 西大台の利用に関する満足度については、7 割以上が満足したと回答しており、概ね良好な結果となった。
- ・ 自由意見では、施設について、案内標識やトイレ・携帯トイレブースの充実、歩道の整備を求める意見がみられた。また、運営については、申請手続きの簡略化やガイドの充実などを求める意見がみられた。

## 平成 23 年度 利用集中期の設定

4月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10月

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

11月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

利用集中期

利用集中期 4/23～6/19、8/6～8/15、9/23～11/3

## 平成 23 年度 月別上限人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	日数計	上限人数計
利用集中期の土日祝日	4	12	6	0	4	3	11	1	41	4,100
利用集中期の平日および利用集中期以外の土日祝日	4	19	15	11	10	12	20	11	102	5,100
上記以外の平日	1	0	9	20	17	15	0	18	80	2,400
日数計	9	31	30	31	31	30	31	30	223	-
月別上限人数	630	2,150	1,620	1,150	1,410	1,350	2,100	1,190	-	11,600

## 平成 24 年度西大台利用調整地区の運用計画（案）

## 1 利用調整を行う期間

平成 24 年 4 月 27 日（金）から 11 月 30 日（金）まで

※県道大台ヶ原公園川上線（大台ヶ原ドライブウェイ）の開通期間。なお、11 月末は冬期通行止めのため変更の可能性がある。

## 2 1 日あたりの立入可能な人数の上限

○ 利用集中期の土日祝日 : 100人

○ 利用集中期の平日、利用集中期以外の土日祝日 : 50人

○ 上記以外の平日 : 30人

※1 団体（2 人以上を団体とする）の利用申込みは、最大 10 人まで。

## 3 利用集中期（カレンダー参照）

過去の台ヶ原の利用実態に基づき、以下の期間を利用集中期として設定する。

○ 春期：平成 24 年 4 月 27 日（金）から 6 月 17 日（日）まで

○ 夏期：平成 24 年 8 月 11 日（土）から 8 月 19 日（日）まで

○ 秋期：平成 24 年 9 月 22 日（土）から 11 月 4 日（日）まで

## 4 指定認定機関

上北山村商工会が、指定認定機関として、引き続き立入認定事務を行う。平成 24 年度の立入については、平成 24 年 1 月 27 日（金）から受付を開始する。

## 5 認定手続きの変更点

小処温泉方面からの入山者に限定して、上北山村商工会にて事前レクチャーを実施予定。

## 6 事前レクチャー

実施期間：平成 24 年 4 月 27 日（金）から 11 月 30 日（金）まで

実施場所：大台ヶ原ビジターセンターレクチャールーム  
上北山村商工会

実施者：近畿地方環境事務所（請負事業者含む）・上北山村商工会

時間割：以下の時間割を予定。

大台ヶ原ビジターセンター		
	利用集中期の平日・ 通常期のすべての日	利用集中期の土日祝日
①	無し	7:30～8:00
②	8:30～9:00	8:30～9:00
③	9:30～10:00	9:30～10:00
④	10:30～11:00	10:30～11:00
⑤	11:30～12:00	11:30～12:00
⑥	16:00～16:30	16:00～16:30

上北山村商工会	
利用集中期、通常期の平日	
①	無し
②	8 : 30 ~ 9 : 00
③	9 : 30 ~ 10 : 00
④	10 : 30 ~ 11 : 00
⑤	11 : 30 ~ 12 : 00
⑥	16 : 00 ~ 16 : 30

(8/13~8/16を除く)

## 7 巡視

実施期間：平成24年4月27日（金）から11月30日（金）まで毎日

実施者：環境省（自然保護官及びアクティブレンジャーによる巡視の他、環境省の巡視業務を請け負った者が職員の指示のもと複数人数で実施）

## 8 モニタリング

利用調整の効果について評価を行う際の基礎資料を得るため、以下の事項について継続調査（モニタリング調査）を実施。調査結果は大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会の森林生態系部会及び利用対策部会で評価を行う。

＜モニタリング調査項目＞

- ・ 自然環境の状態に関する事項：植物相、動物相調査
- ・ 利用の在り方に関する事項：利用実態等に関する調査を実施

## 9 普及啓発

西大台利用調整地区の制度について、引き続き報道機関への情報提供・取材協力、ホームページの運用や広報資料の配布、展示会への参加等による幅広い普及啓発を実施する。

普及啓発の実施に当たっては、ホームページのリニューアルを行い、大台ヶ原の魅力をより広く社会にPRする。上北山村商工会がレクチャー場所に加わった事など、西大台利用調整地区における制度の変更等についても周知するように十分配慮する。

## 10 自然ふれあいプログラムの提供等

エコツアーの実施等、周辺地域の関係機関等と連携したプログラムを検討する。

## 11 結果報告

利用調整期間終了後、各種モニタリング調査及び運用結果について整理・分析し、本協議会において報告を行うとともに、ホームページにより公表する。

## 平成 24 年度 利用集中期の設定（案）

4月						
月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5月						
月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月						
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7月						
月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月						
月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月						
月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10月						
月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月						
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

 利用集中期

※ 利用調整期間 4/27～11/30（冬季通行止めの期日により変更あり）  
 利用集中期 4/27～6/17、8/11～8/19、9/22～11/4 計 105 日

## 大台ヶ原の利用動向

大台ヶ原山上駐車場における正午時点の車両駐車台数（ビジターセンター調べ）をもとに、平成 23 年 4 月 22 日から 10 月 31 日までの推計利用者数（以下、「利用者数」とする）を算出した<sup>1</sup>。

### 1. 車両駐車台数の推移

平成 23 年度の 10 月末日までの正午時点における駐車台数の合計は、観光バス 233 台、乗用車 10,561 台、二輪車 1,671 台であった（平成 22 年度（通年）：観光バス 417 台、乗用車 16,042 台、二輪車 1,687 台）。

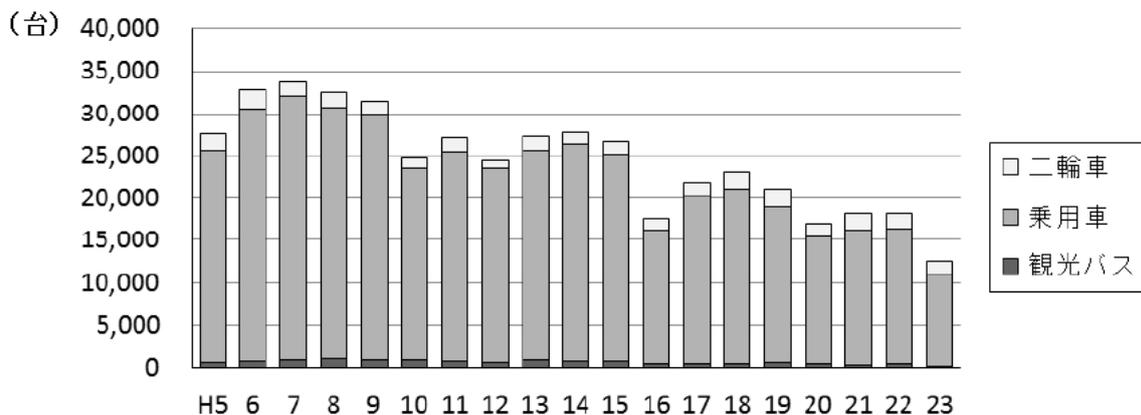


図 1 車両種類別にみた正午における駐車台数の推移  
(平成 23 年度のみ 10 月末現在)

### 2. 推計利用者数の推移

平成 22 年度に利用者推計式の係数の見直しを行った。（平成 20 年から平成 22 年の調査による）以後、平成 22 年度、平成 23 年度の利用者数の記述においては、従来係数による利用者数と新たな係数による利用者数を併記する。新たな係数による利用者数は（ ）内に記述する。

	平均乗車人数(人)			乗用車回転率
	乗用車	観光バス	バイク	(一)
従来の係数	3	25	1.5	3
平成20年度	2.2	24.4	1.1	1.9
平成21年度	2.2	26.1	1.1	2.1
平成22年度	2.2	17.8	1.1	2
新たに算出した係数(3カ年計)	2.2	22	1.1	2

図 2 利用者推計式における従来の係数と新たな係数

平成 23 年度の 10 月末日までの大台ヶ原の年間利用者数は、103,381 人 (53,432 人) であった。なお、平成 22 年度（通年）の利用者数は 157,334 人、(81,615 人) であった。

注 1 推計利用者数＝観光バス台数×25 人(22 人)+自動車台数×3 人(2.2 人)×3 回転(2 回転)+二輪車台数×1.5 人(1.1 人)

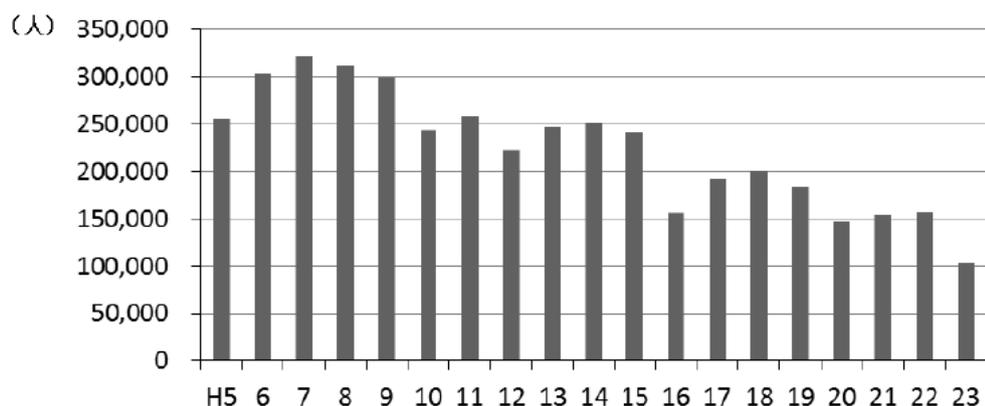


図3 大台ヶ原の利用者数の推移  
(平成23年度のみ10月末現在)

### 3. 月別利用者数

過去5年間について、月別利用者数の推移をみると、平成19年度を除いて、10月が最も利用者数が多く、次いで5月、8月、11月の利用者が多くなっている。平成23年度については、10月の利用者数が最も多く22,981人(12,068人)で全体利用者数の22.2%となり、次いで5月は20,914人(11,114人)で全体の20.2%、次に8月、20,343人(10,207人)で全体の19.7%、次に7月、16,302人(8,268人)で全体の15.8%となっている。

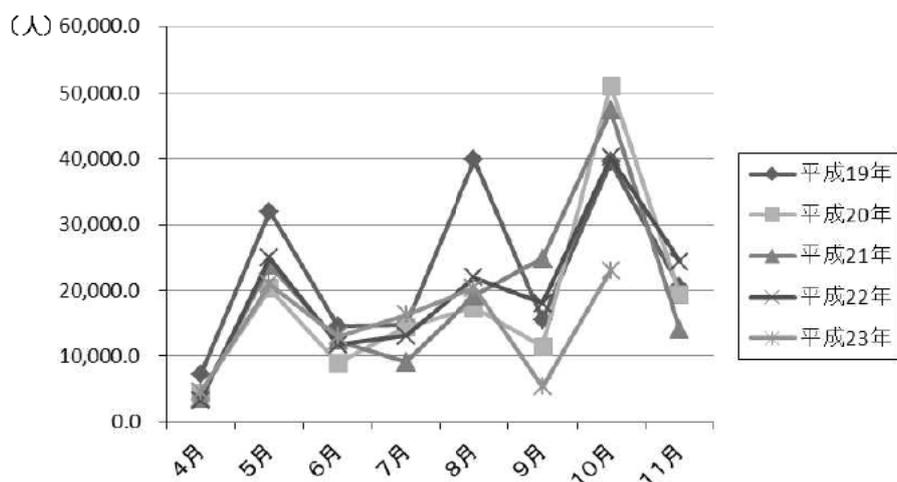


図4 月別利用者数の推移  
(平成23年度のみ10月末現在)

#### 4. 曜日別利用者数

平成 23 年度の、平日と休日（土日祝日）の利用者数の割合は、平日が 46.0%、休日が 54.0%であった。

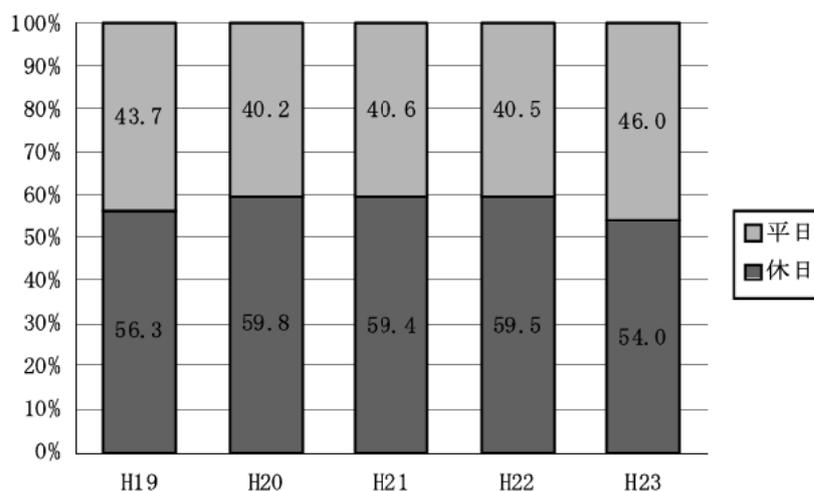


図 5 曜日別利用者数割合の推移  
(平成 23 年度のみ 10 月末現在)

#### 5. 日別利用者数

日別の利用者数は下図の通りである。最も利用者数が多かったのは、7月17日(日)の3,011人(1,522人)であり、全体の2.9%であった。なお、平成22年度(通年)で最も利用者数が多かったのは、10月23日(土)の5,602人(2,913人)であった。

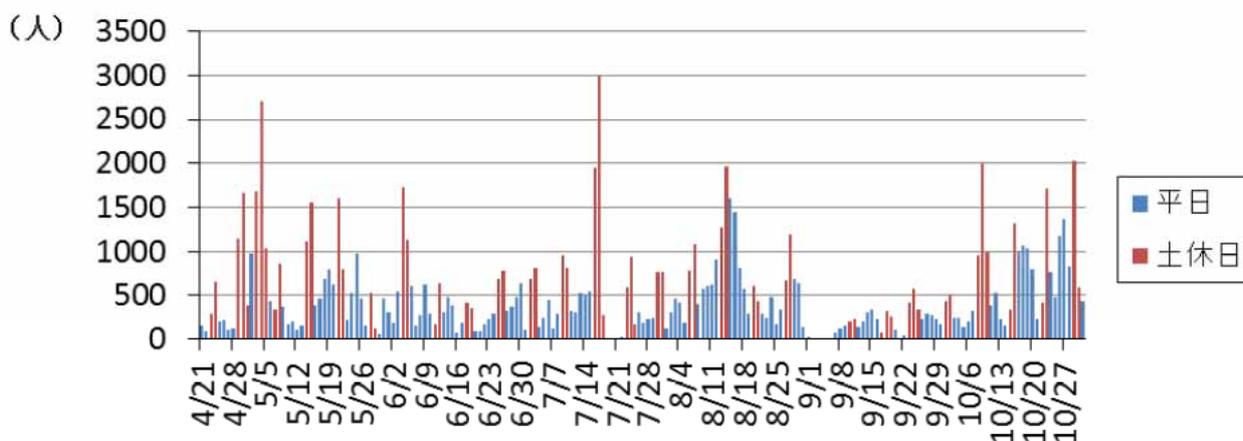


図 5 平成 23 年度日別利用者数  
(4 月 21 日～10 月 31 日)

平成 23 年度西大台利用調整地区の利用実態等

1. 西大台利用調整地区の立入認定者数等

(1) 日別認定者数

平成 23 年度の 4 月 22 日から 11 月 30 日まで (223 日間) の日別の認定者数は、下図の通りである。最も認定者数が多かったのは、10 月 30 日 (日) の 64 人であった (平成 22 年度 : 10 月 17 日 (日)、82 人)。

また、認定者数が 0 の日は、223 日間で 66 日間あり、その割合は 29.6%であった (平成 22 年度 : 223 日間で 76 日間、34.1%)。認定者数が上限に達した日は、7 月 17 日 (日) (上限 50 人)、8 月 18 日 (木) (上限 30 人)、8 月 24 日 (水) (上限 30 人)、10 月 31 日 (月) の 4 日間であった。なお、各日の認定者数については、表 5 にまとめた。

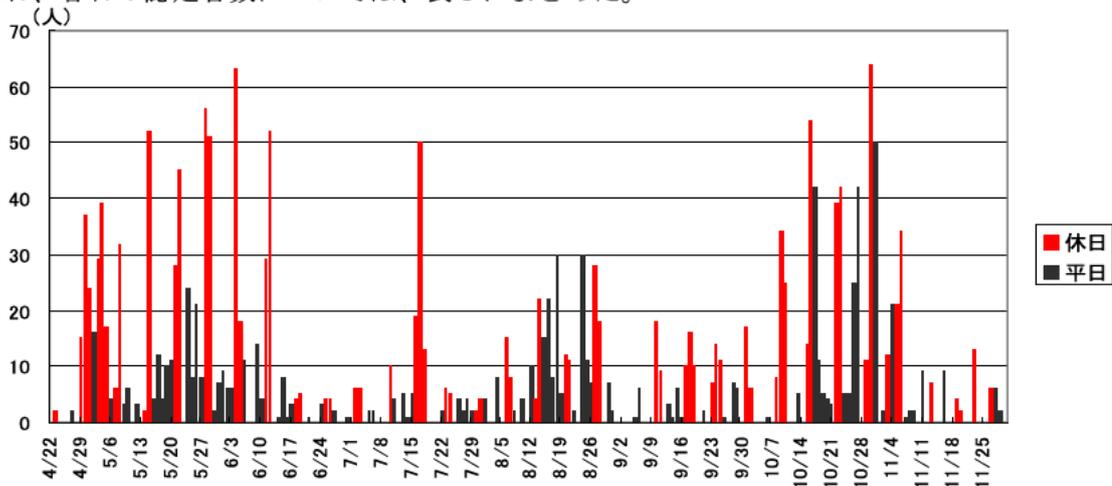


図 1 日別認定者数

(2) 月別認定者数

月別の認定者数を下表にまとめた。平成 23 年度の延べ認定者数は 2,062 人で、平成 22 年度の 1,708 人から 354 人増加した。また、立入をキャンセルした人を除く推定立入人数は計 1,666 人であった。延べ上限人数に対する認定者数の比率は平均 17.8%で、昨年度の 15.5%から 2.3%上昇した。

認定者数が最も多かった月は、5 月の 524 人、次いで 10 月の 512 人、8 月の 285 人であった。認定者数が最も少なかったのは、4 月を除くと、9 月の 129 人、次いで 11 月の 153 人、7 月の 154 人であった。

表 1 月別認定者数

月	認定者数①		キャンセル数②		推定立入人数 (①-②)		延べ上限人数③		上限に対する比率 (%) (①÷③×100)	
4月	(21)	56	(0)	16	(21)	40	(560)	630	(3.8)	8.9
5月	(260)	524	(57)	94	(203)	430	(2,200)	2,150	(11.8)	24.4
6月	(273)	249	(33)	66	(240)	183	(1,060)	1,620	(25.8)	15.4
7月	(102)	154	(6)	19	(96)	135	(1,130)	1,150	(9.0)	13.4
8月	(153)	285	(1)	21	(152)	264	(1,410)	1,410	(10.9)	20.2
9月	(124)	129	(7)	75	(117)	54	(1,350)	1,350	(9.2)	9.6
10月	(615)	512	(52)	84	(563)	428	(2,100)	2,100	(29.3)	24.4
11月	(160)	153	(17)	21	(143)	132	(1,190)	1,190	(13.4)	12.9
合計	(1,708)	2,062	(173)	396	(1,535)	1,666	(11,000)	11,600	(15.5)	17.8

※ 1 : ( )内は、平成 22 年度の認定者数等の値

※ 2 : 平成 23 年度の 4 月は 4/22~4/30 の 9 日間。平成 22 年度の 4 月は 4/22~4/30 の 9 日間。

### (3) 月別認定者数の推移

平成 19 年度から平成 23 年度までの月別認定者数の推移について下表にまとめた。平成 20 年度と平成 23 年度の各月の認定者数を比較すると、4 月が横ばい、11 月が減少しているが、その他の月では増加している。特に、5 月は 2.4 倍、8 月は 2.2 倍、7 月は 1.8 倍と大きく増加している。

表 2 月別認定者数の推移

月	認定者数				
	H19	H20	H21	H22	H23
4月	-	55	51	21	56
5月	-	222	324	260	524
6月	-	174	118	273	249
7月	-	88	86	102	154
8月	-	127	137	153	285
9月	67	85	87	124	129
10月	250	304	332	615	512
11月	135	233	138	160	153
合計	452	1,288	1,273	1,708	2,062

### (4) 上限人数別認定者数

上限人数別の認定数を下表に示した。延べ上限人数に対する認定者の比率は、利用集中期の土日祝日では 24.7%、利用集中期の平日及び利用集中期以外の土日祝日では 15.7%、利用集中期以外の平日では 10.3%であった。

平成 22 年度と比較すると、利用集中期の土日祝日では 7.3%、利用集中期以外の平日では 3.5%増加した。一方、利用集中期の平日及び利用集中期以外の土日祝日では 3.7%減少した。

表 3 上限人数別の認定者数（平成 23 年度）

	一日あたりの上限人数	平成23年度の日数	延べ上限人数①	認定者数②	上限に対する比率 (②÷①×100)
利用集中期の土日祝日	100	41	4,100	1,013	24.7
利用集中期の平日及び 利用集中期以外の土日祝日	50	102	5,100	801	15.7
利用集中期以外の平日	30	80	2,400	248	10.3
合計	-	223	11,600	2,062	17.8

※平成 23 年度の利用集中期は、4/23～6/19、8/6～8/15、9/23～11/3

表 4 上限人数別の認定者数（平成 22 年度）

	一日あたりの上限人数	平成22年度の日数	延べ上限人数①	認定者数②	上限に対する比率 (②÷①×100)
利用集中期の土日祝日	100	35	3,500	610	17.4
利用集中期の平日及び 利用集中期以外の土日祝日	50	93	4,650	903	19.4
利用集中期以外の平日	30	95	2,850	195	6.8
合計	-	223	11,000	1,708	15.5

※平成 22 年度の利用集中期は、4/24～5/31、8/7～8/15、9/23～11/3

表5 日別認定者数等一覧

4月						
日	曜日	認定者数	受講者数	免除者数	キャンセル数	上限
1	金					
2	土					
3	日					
4	月					
5	火					
6	水					
7	木					
8	金					
9	土					
10	日					
11	月					
12	火					
13	水					
14	木					
15	金					
16	土					
17	日					
18	月					
19	火					
20	水					
21	木					
22	金	0	0	0	0	30
23	土	2	0	0	2	100
24	日	0	0	0	0	100
25	月	0	0	0	0	50
26	火	0	0	0	0	50
27	水	2	2	0	0	50
28	木	0	0	0	0	50
29	金祝	15	8	0	7	100
30	土	37	30	0	7	100
計		56	40	0	16	630

5月						
日	曜日	認定者数	受講者数	免除者数	キャンセル数	上限
1	日	24	10	0	14	100
2	月	16	16	0	0	50
3	火祝	29	29	0	0	100
4	水祝	39	39	0	0	100
5	木祝	17	15	0	2	100
6	金	4	3	0	1	50
7	土	6	3	0	3	100
8	日	32	32	0	0	100
9	月	3	3	0	0	50
10	火	6	6	0	0	50
11	水	0	0	0	0	50
12	木	3	0	0	3	50
13	金	0	0	0	0	50
14	土	2	2	0	0	100
15	日	52	51	0	1	100
16	月	4	4	0	0	50
17	火	12	11	0	1	50
18	水	4	3	0	1	50
19	木	10	9	0	1	50
20	金	11	9	0	2	50
21	土	28	23	0	5	100
22	日	45	39	0	6	100
23	月	0	0	0	0	50
24	火	24	24	0	0	50
25	水	8	8	0	0	50
26	木	21	17	0	4	50
27	金	8	8	0	0	50
28	土	56	33	3	20	100
29	日	51	20	3	28	100
30	月	2	0	0	2	50
31	火	7	7	0	0	50
計		524	424	6	94	2,150

6月						
日	曜日	認定者数	受講者数	免除者数	キャンセル数	上限
1	水	9	7	1	1	50
2	木	6	4	0	2	50
3	金	6	4	2	0	50
4	土	63	53	2	8	100
5	日	18	17	1	0	100
6	月	11	10	0	1	50
7	火	0	0	0	0	50
8	水	0	0	0	0	50
9	木	14	13	1	0	50
10	金	4	4	0	0	50
11	土	29	0	0	29	100
12	日	52	35	0	17	100
13	月	0	0	0	0	50
14	火	1	1	0	0	50
15	水	8	7	0	1	50
16	木	1	0	0	1	50
17	金	3	2	0	1	50
18	土	4	4	0	0	100
19	日	5	4	0	1	100
20	月	0	0	0	0	30
21	火	1	1	0	0	30
22	水	0	0	0	0	30
23	木	0	0	0	0	30
24	金	3	3	0	0	30
25	土	4	0	0	4	50
26	日	4	4	0	0	50
27	月	2	2	0	0	30
28	火	0	0	0	0	30
29	水	0	0	0	0	30
30	木	1	1	0	0	30
計		249	176	7	66	1,620

7月						
日	曜日	認定者数	受講者数	免除者数	キャンセル数	上限
1	金	0	0	0	0	30
2	土	6	6	0	0	50
3	日	6	6	0	0	50
4	月	0	0	0	0	30
5	火	2	2	0	0	30
6	水	2	2	0	0	30
7	木	0	0	0	0	30
8	金	0	0	0	0	30
9	土	0	0	0	0	50
10	日	10	8	0	2	50
11	月	4	4	0	0	30
12	火	0	0	0	0	30
13	水	5	5	0	0	30
14	木	1	1	0	0	30
15	金	5	4	1	0	30
16	土	19	16	0	3	50
17	日	50	47	0	3	50
18	月祝	13	10	0	3	50
19	火	0	0	0	0	30
20	水	0	0	0	0	30
21	木	0	0	0	0	30
22	金	2	0	0	2	30
23	土	6	6	0	0	50
24	日	5	3	0	2	50
25	月	0	0	0	0	30
26	火	4	2	0	2	30
27	水	2	2	0	0	30
28	木	4	2	0	2	30
29	金	2	2	0	0	30
30	土	2	2	0	0	50
31	日	4	4	0	0	50
計		154	134	1	19	1,150

8月						
日	曜日	認定者数	受講者数	免除者数	キャンセル数	上限
1	月	4	2	0	2	30
2	火	0	0	0	0	30
3	水	0	0	0	0	30
4	木	8	0	0	8	30
5	金	0	0	0	0	30
6	土	15	15	0	0	100
7	日	8	8	0	0	100
8	月	2	2	0	0	50
9	火	0	0	0	0	50
10	水	4	2	0	2	50
11	木	0	0	0	0	50
12	金	10	10	0	0	50
13	土	4	4	0	0	100
14	日	22	22	0	0	100
15	月	15	14	0	1	50
16	火	22	20	0	2	30
17	水	8	7	0	1	30
18	木	30	30	0	0	30
19	金	5	5	0	0	30
20	土	12	12	0	0	50
21	日	11	11	0	0	50
22	月	2	2	0	0	30
23	火	0	0	0	0	30
24	水	30	30	0	0	30
25	木	11	8	0	3	30
26	金	7	7	0	0	30
27	土	28	27	0	1	50
28	日	18	17	0	1	50
29	月	0	0	0	0	30
30	火	7	7	0	0	30
31	水	2	2	0	0	30
計		285	264	0	21	1,410

9月						
日	曜日	認定者数	受講者数	免除者数	キャンセル数	上限
1	木	0	0	0	0	30
2	金	0	0	0	0	30
3	土	0	0	0	0	50
4	日	0	0	0	0	50
5	月	1	0	0	1	30
6	火	6	0	0	6	30
7	水	0	0	0	0	30
8	木	0	0	0	0	30
9	金	0	0	0	0	30
10	土	18	0	0	18	50
11	日	9	3	0	6	50
12	月	0	0	0	0	30
13	火	3	0	0	3	30
14	水	1	0	0	1	30
15	木	6	2	0	4	30
16	金	1	1	0	0	30
17	土	10	0	0	10	50
18	日	16	11	0	5	50
19	月祝	10	8	0	2	50
20	火	0	0	0	0	30
21	水	2	0	0	2	30
22	木	0	0	0	0	30
23	金祝	7	4	1	2	100
24	土	14	9	1	4	100
25	日	11	10	1	0	100
26	月	1	0	1	0	50
27	火	0	0	0	0	50
28	水	7	2	0	5	50
29	木	6	0	0	6	50
30	金	0	0	0	0	50
計		129	50	4	75	1,350

10月						
日	曜日	認定者数	受講者数	免除者数	キャンセル数	上限
1	土	17	11	0	6	100
2	日	6	6	0	0	100
3	月	0	0	0	0	50
4	火	0	0	0	0	50
5	水	0	0	0	0	50
6	木	1	1	0	0	50
7	金	0	0	0	0	50
8	土	8	6	1	1	100
9	日	34	20	2	12	100
10	月祝	25	23	2	0	100
11	火	0	0	0	0	50
12	水	0	0	0	0	50
13	木	5	3	2	0	50
14	金	0	0	0	0	50
15	土	14	9	0	5	100
16	日	54	50	1	3	100
17	月	42	36	6	0	50
18	火	11	5	6	0	50
19	水	5	5	0	0	50
20	木	4	4	0	0	50
21	金	3	3	0	0	50
22	土	39	21	1	17	100
23	日	42	33	2	7	100
24	月	5	5	0	0	50
25	火	5	4	1	0	50
26	水	25	15	4	6	50
27	木	42	32	10	0	50
28	金	0	0	0	0	50
29	土	11	7	1	3	100
30	日	64	47	0	17	100
31	月	50	42	1	7	50
計		512	388	40	84	2,100

11月						
日	曜日	認定者数	受講者数	免除者数	キャンセル数	上限
1	火	0	0	0	0	50
2	水	2	2	0	0	50
3	木祝	12	9	2	1	100
4	金	21	21	0	0	30
5	土	21	19	0	2	50
6	日	34	33	0	1	50
7	月	1	1	0	0	30
8	火	2	2	0	0	30
9	水	2	1	1	0	30
10	木	0	0	0	0	30
11	金	9	0	0	9	

## (5) 事前レクチャーの実施状況

平成 23 年度の立入認定者に対する事前レクチャーの実施状況について下表にまとめた。認定者 2,062 人の内、複数回認定により受講を免除された人が 62 人、立入をキャンセルした人が 396 人おり、レクチャー受講者は 1,604 人であった。

認定者数に対するレクチャー受講者数、免除者数、キャンセル数の比率は、それぞれ、77.8%、3.0%、19.2%である（平成 22 年度：87.9%、2.0%、10.1%）。

表 6 レクチャー受講者数等

	認定者数	レクチャー 受講者数	受講免除者 数	キャンセル 数
4月	56	40	0	16
5月	524	424	6	94
6月	249	176	7	66
7月	154	134	1	19
8月	285	264	0	21
9月	129	50	4	75
10月	512	388	40	84
11月	153	128	4	21
合計	2,062	1,604	62	396

## 2. 巡視及び違反者等への指導状況

### (1) 巡視の実施状況

平成 23 年度の 10 月末までの巡視の実施状況についてまとめた。平成 23 年度は、4 月 22 日から 10 月末日までの間、雨量規制によりドライブウェイが通行止めとなった日などを除いて、毎日巡視を実施した。平成 23 年度の 10 月末までの推定立入人数、及び巡視中の立入者の確認人数は下表のとおりである。巡視中に立入者を確認した割合は、90.0%であった（平成 22 年度 10 月末現在：91.8%）。

表 7 巡視における立入者の確認状況

月	推定立入人数①		確認人数②		確認割合(%) (②/①×100)	
4月	(21)	40	(11)	40	(52.4)	100.0
5月	(203)	430	(190)	419	(93.6)	97.4
6月	(240)	183	(237)	175	(98.8)	95.6
7月	(96)	135	(89)	112	(92.7)	83.0
8月	(152)	264	(130)	238	(85.5)	90.2
9月	(117)	54	(101)	49	(86.3)	90.7
10月	(563)	428	(520)	348	(92.4)	81.3
合計	(1,392)	1,534	(1,278)	1,381	(91.8)	90.0

※ ( ) 内は平成 22 年度の値

## (2) 違反者等への指導の状況

平成23年度の10月末までの違反者等への指導等の状況について、下表にまとめた。10月末までの無認定立入者への指導件数は、計5件・延べ7人であった（平成22年度10月末現在：計6件・延べ10人）。無認定立入者に対しては、制度説明や注意の上、利用調整地区からの退去を求めており、いずれの場合も違反者は指導に従って退去している。

利用調整地区に入ろうとしている人に入口で注意するなどして、無認定立入の未然防止を行った件数は、計15件・延べ25人であった（平成22年度10月末現在：計20件・延べ35人）。

また、ドライブウェイにおいて、運転者不在の路上駐車車両を確認した台数が、計58台であった（平成22年度10月末現在：計88台）。

表8 違反者等への指導の状況

月	区域内における無認定立入者への指導		入口等での無認定立入の防止		ドライブウェイにおける駐車車両の確認台数	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	(0) 1	(0) 2	(0) 1	(0) 3	(2)	6
5月	(3) 2	(3) 2	(6) 0	(9) 0	(16)	18
6月	(1) 0	(5) 0	(4) 0	(6) 0	(12)	9
7月	(0) 0	(0) 0	(6) 0	(15) 0	(14)	7
8月	(2) 1	(2) 2	(1) 6	(1) 9	(13)	3
9月	(0) 0	(0) 0	(2) 1	(2) 1	(14)	5
10月	(0) 1	(0) 1	(1) 7	(2) 12	(17)	10
合計	(6) 5	(10) 7	(20) 15	(35) 25	(88)	58

※1：（ ）内は、平成22年度の値

※2：ドライブウェイ上に駐車している運転者不在の車両については、無認定で西大台利用調整地区に入山している可能性があることから、巡視において駐車車両の確認を行った。

表9 違反者等に対する指導一覧

日付	曜日	注意の内容等	住所氏名の確認
4/29	金	展望台付近で小処温泉から入山してきた違反者2名を確認。小処温泉に車を駐車しているとのことだったので、注意、制度説明をして下山してもらった。	
5/21	土	七ツ池付近で鳥の写真を撮影している違反者1名を確認。認定を受けて入山をした経験があり、違反を認識していた。制度説明の上、退去してもらった。	○
5/30	月	ドライブウェイ5.2km付近に駐車し、利用調整区域内で写真撮影をしている違反者1名を確認。利用調整制度は認識していたがドライブウェイ沿いが区域内であるとは理解していなかった。その旨を説明し、退去してもらった。	
8/30	火	入口付近で下山する違反者2名を確認。制度説明の上、ピジターセンターへ行くよう指導。	○
10/9	日	ドライブウェイ2.1km付近より入山し、歩道近くまで入った違反者1名を確認。制度について説明し、退去してもらった。	

## 利用者意識等に関するアンケート調査結果

### 1. 調査方法等

事前レクチャー後に受講者に対してアンケート調査票を配布し、郵送または現地で回収した<sup>1</sup>。10月末現在のアンケート回収数は350である。以下に、10月末現在までのアンケート調査結果を集計し、過年度と比較した。

### 2. 調査結果

#### 2-1. 回答者の属性

##### (1) 性別

回答者の性別は男性が62.3%、女性が37.4%となり、過去4年間に比べて男性の割合が大きくなった。

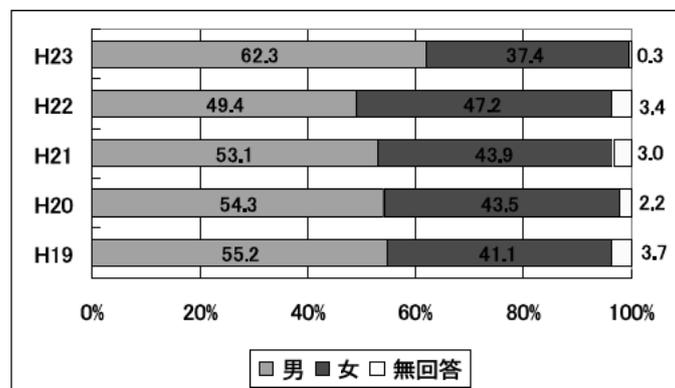


図1 性別

##### (2) 年齢

回答者の年齢は、過年度と同様に、60代の割合が32.9%と最も多く、次いで50代が20.3%と多かった。

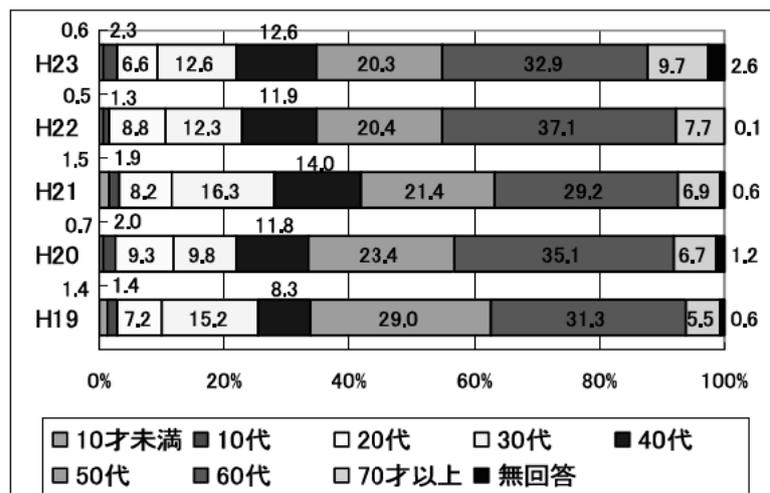
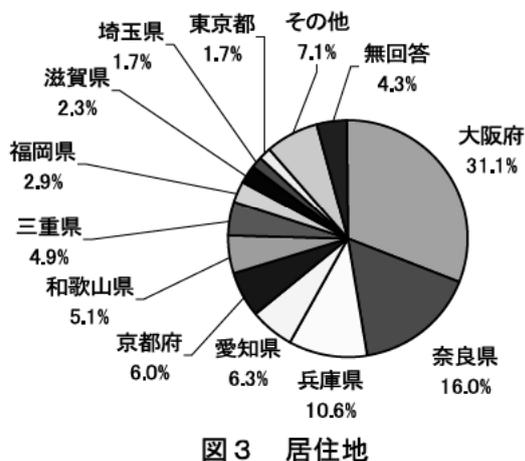


図2 年齢

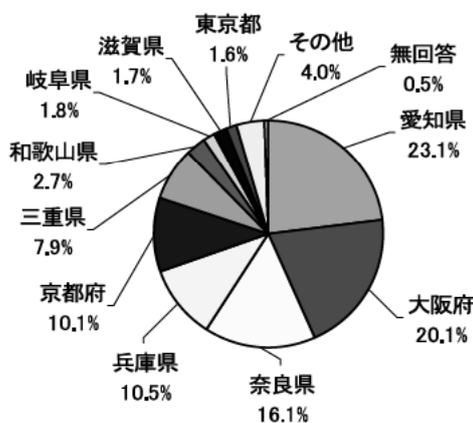
<sup>1</sup> 昨年度までは、「事前レクチャー等に関するアンケート」（レクチャー実施後、回収）と「西大台の利用に関するアンケート」（利用後、主に郵送で回収）に分けて実施していたが、今年度より、設問項目を追加したことにとともに、1回のアンケートにまとめて実施した。

### (3) 居住地

居住地については、昨年度は、団体ツアーの増加等により、愛知県が最も多かったが、平成23年度は、大阪府が31.1%と最も多く、次いで奈良県16.0%、兵庫県10.6%、愛知県6.3%の順となった。その他には、上位府県に大きな変化はなかった。

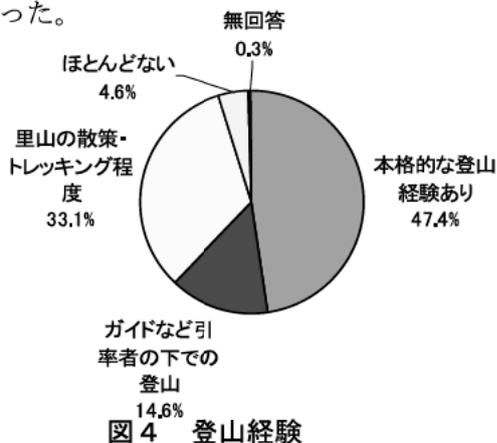


(参考) 平成22年度の結果



### (4) 登山経験

登山経験については、「本格的な登山経験あり」とした人が最も多く47.4%を占め、次いで、「里山の散策・トレッキング程度」が33.1%、「ガイドなど引率者の下での登山」が14.6%、「ほとんどない」とした人が4.6%であった。



### (5) 自然保護活動への参加経験

自然保護活動への参加経験については、「特になし」が169人と最も多かった。参加したことがある自然保護活動としては、「自然観察会」が77人と最も多く、次いで、「山岳地の美化清掃」36人、「里山保護活動」25人、「動植物の保全活動」12人の順であった。

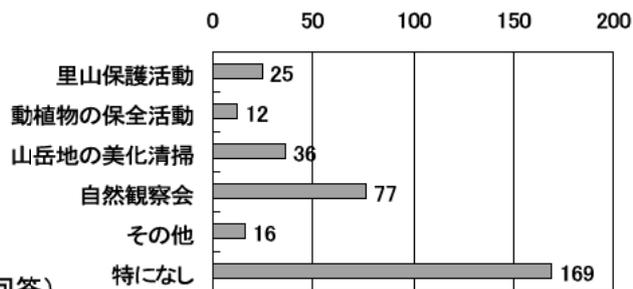


図5 自然保護活動への参加経験 (複数回答)

(n=350)

## (6) 来訪目的

来訪目的は「登山・散策」が62.9%と最も多く、次いで「自然とのふれあい」が20.6%、「写真撮影」が3.7%、「生物の観察」が2.6%、「学習目的」<sup>2</sup>が1.4%で、過去4年間と比べて「自然とのふれあい」と答えた人が多かった。

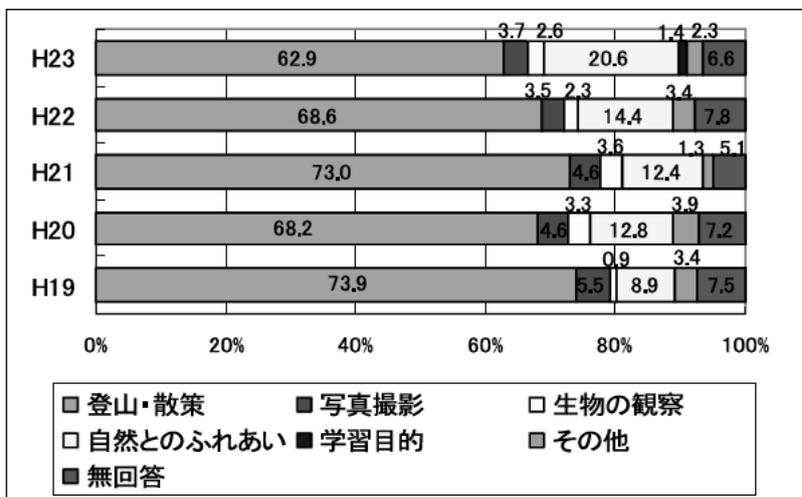


図6 来訪目的

## 2-2. 団体ツアー・個人の別

団体ツアー・個人の別については、「個人」が83.1%と大半を占め、「団体ツアー」は16.6%であった。

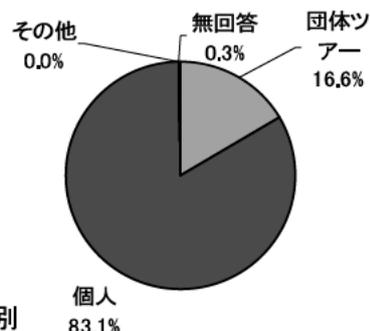


図7 団体ツアー・個人の別

## 2-3. 交通手段

交通手段は、「自家用車」が70.9%と最も多かった。昨年度は、団体ツアーの増加により、「観光(貸切)バス」が41.7%と大きく増加したが、本年度は13.1%と少なくなった。一方、「路線バス」は14.9%と増加した。

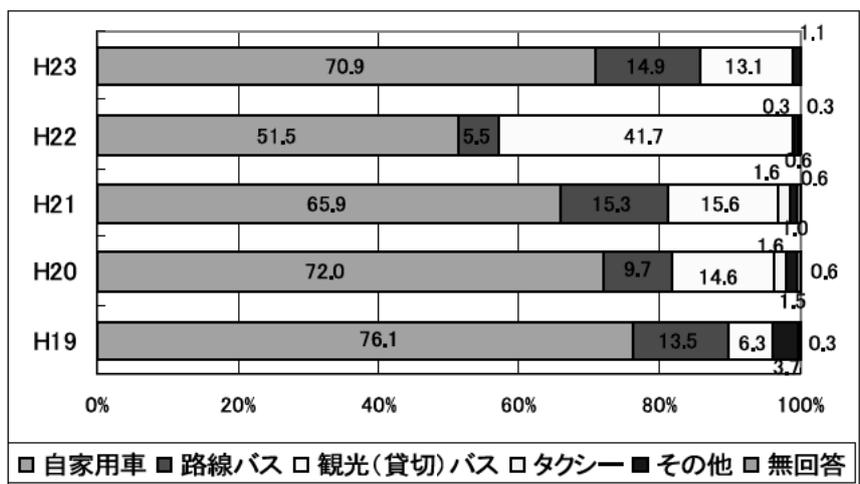


図8 交通手段

<sup>2</sup> 「学習目的」の選択肢は、本年度より追加した。

## 2-4. 来訪回数

### (1) 西大台地区への来訪回数

西大台地区への来訪回数は、今回が初めてである人の割合が 74.3%と最も多かったが、平成 21 年度以降、「初めて」の割合は減少しつつある。

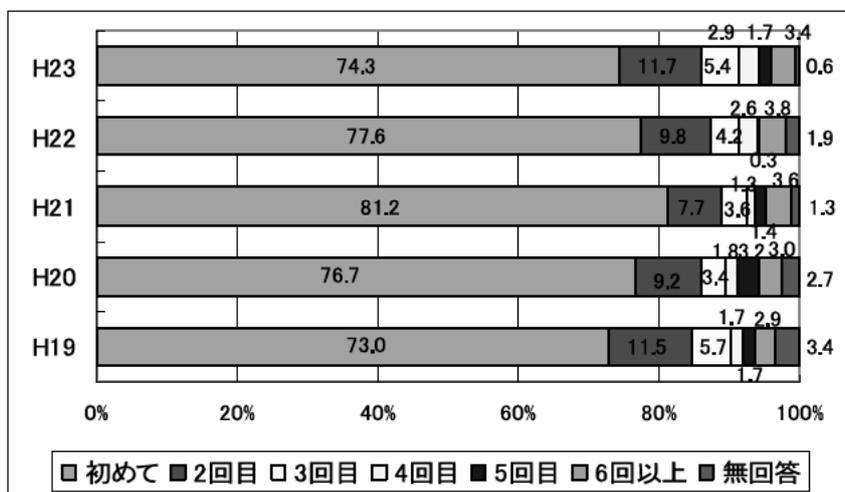


図 9 西大台地区への来訪回数

### (2) 大台ヶ原への来訪回数

大台ヶ原への来訪回数についても、「初めて」の割合が 34.5%と最も多かったが、平成 21 年度以降、「初めて」の割合は減少しつつある。

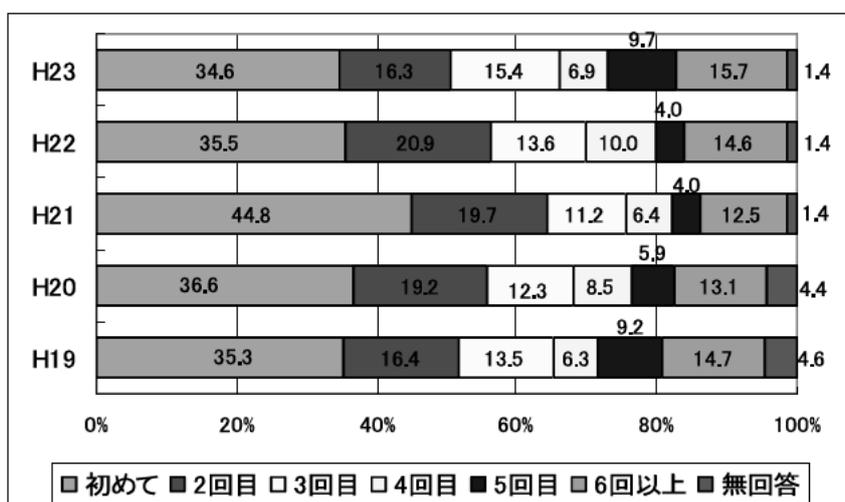


図 10 大台ヶ原への来訪回数

## 2-5. 事前レクチャーについて

### (1) 事前レクチャーの時間の長さ

事前レクチャーの長さについては 74.3%が「ちょうどよい」と回答しており、ほとんどの人にとって適切な長さであることが示されているが、過年度と比べると、「ちょうどよい」の割合は減少し、「長すぎる」の割合が増加している。

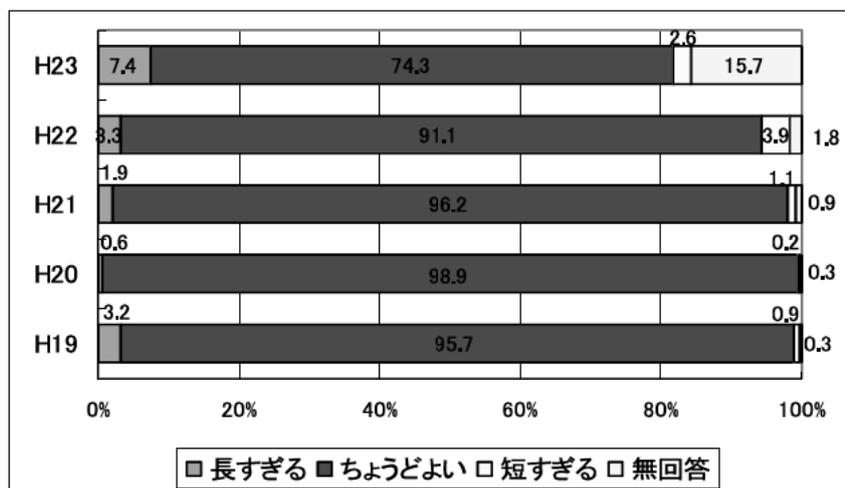


図 11 レクチャーの長さに対する評価

### (2) 事前レクチャーの内容

#### 1) 全体

事前レクチャーの全体的な内容については、「満足」が 65.4%と最も多いが、「普通」も 19.4%あり、レクチャー内容の充実により、受講者の満足度をより高めることが可能であることが示唆された。

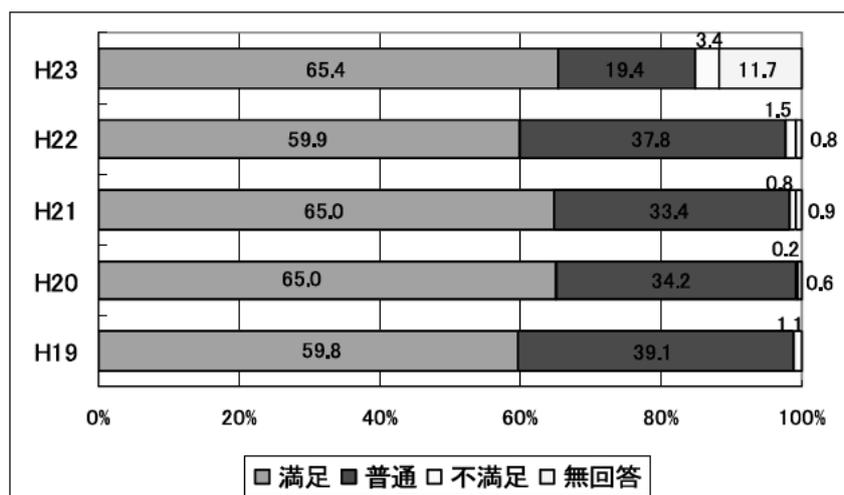


図 12 レクチャー全体に対する評価

## 2) 個別の説明内容に対する評価

レクチャーにおける個別の説明内容に関しては、制度の説明については、「満足」と「やや満足」が合わせて62.9%、「普通」が22.3%、「不満」、「やや不満」が合わせて2.3%であった。

利用ルールについても、「満足」と「やや満足」が合わせて61.4%、「普通」が23.4%、「不満」、「やや不満」が合わせて2.0%と、制度の説明とほぼ同様の結果であった。

一方、見所の解説については、「満足」と「やや満足」が合わせて57.1%、「普通」が22.3%、「不満」、「やや不満」が合わせて8.0%となり、前2者に比べて、やや満足度が低かった。

また、安全の説明についても、「満足」と「やや満足」が合わせて56.0%、普通が26.9%、「不満」、「やや不満」が合わせて4.3%となり、やや満足度が低かった。

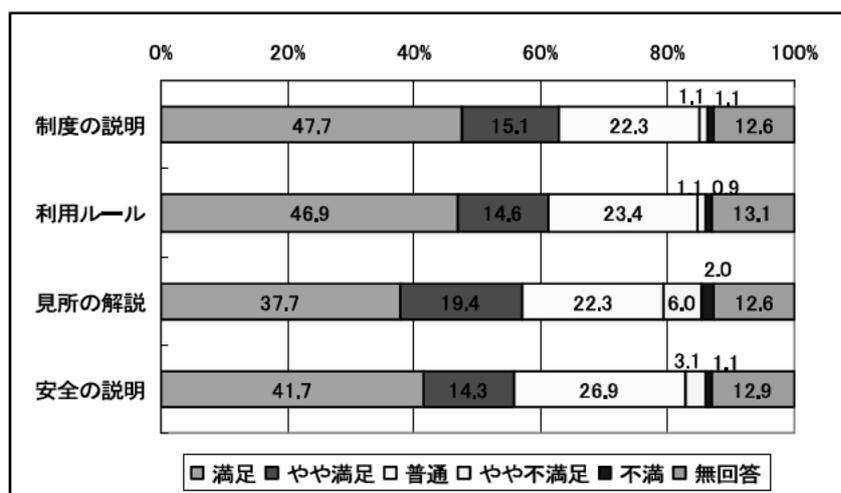


図 13 個別の説明内容に対する評価

## (3) 冊子の内容

配布冊子の内容については、「満足」が74.6%と最も多く、「普通」が16.3%、「不満足」が5.7%であり、過去4年間と比べて、最も「満足」が多くなった。

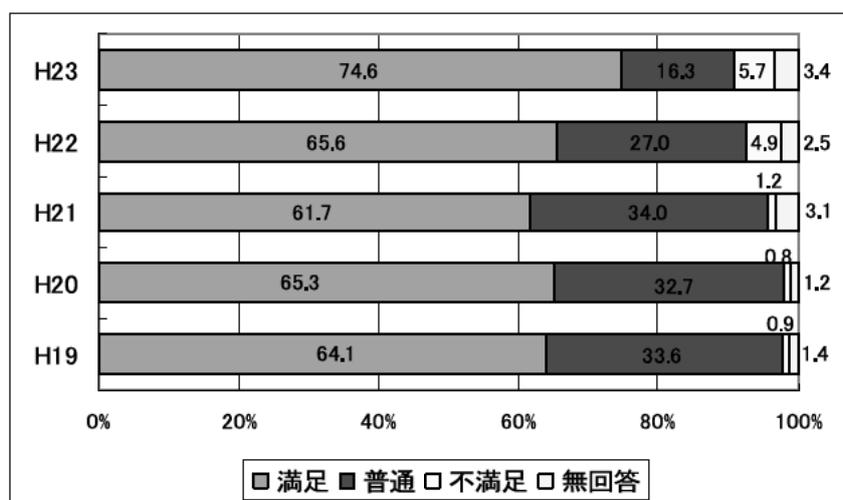


図 14 冊子に対する評価

#### (4) レクチャーに関する意見

##### 1) レクチャー・冊子に関する不満な点・改善すべき点

事前レクチャーの内容や冊子について、以下のように計 55 件の意見があった。

##### <レクチャーの内容に関する意見> (31 件)

- ・もっと詳しい説明をしてほしい。(3 件)
- ・ガイド冊子に載っている以外のことを詳しく説明してほしい。(2 件)
- ・動植物の見所などをもう少し説明してほしい。(6 件)
- ・コースについて、迷いやすい箇所や注意点などを詳しく説明してほしい。(7 件)
- ・スライドや動画を用いて説明してほしい。(4 件)
- ・自分の目で見たいので、見所の写真などは見せなくてよい。(1 件)
- ・記憶に残るように工夫してほしい。(1 件)
- ・登山者のレベルに合わせた内容にしてほしい。(1 件)
- ・制度の趣旨を詳しく教えてほしい。(1 件)
- ・利用調整の方法やその効果について説明してほしい。(1 件)
- ・大台ヶ原の自然が荒廃した理由などについて、もっと詳しく説明してほしい。(1 件)
- ・禁止事項をもう少し明確に説明してほしい。(1 件)
- ・禁煙について強調してほしい。(1 件)
- ・レクチャーの内容と実際は全然違っていた。(1 件)

##### <冊子の内容に関する意見> (19 件)

- ・地質・地形と植生との関係をもっと詳しく書いてほしい。(1 件)
- ・植物に関するより詳しい情報や季節の花などを掲載してほしい。(4 件)
- ・各ポイントの写真があるとよい。(1 件)
- ・もう少し詳しい地図を掲載してほしい。(9 件)
- ・標識と冊子とで名前が一致していない箇所があった。(2 件)
- ・2種類のガイド冊子を1つにした方がよい。(1 件)
- ・冊子は必要ない。(1 件)

##### <その他意見> (5 件)

- ・グループごとの間隔を 10 分間あけるのは、長いと思う。(2 件)
- ・レクチャーが必要か疑問である。(1 件)
- ・レクチャーは希望者のみの参加にしてほしい。(1 件)
- ・レクチャーは 30 分と聞いていたが、40 分かかった。(1 件)

##### 2) レクチャーの時間割に関する意見

事前レクチャーの時間割について、以下のように計 22 件の意見があった。

- ・もっと早い時間からレクチャーを始めてほしい。(13 件)
- ・レクチャーの開始を 30 分おきにしてほしい。(2 件)
- ・人が少ないときは、随時、レクチャーを実施してほしい。(1 件)

- ・レクチャーの実施回数を増やしてほしい。(2件)
- ・レクチャーの時間を短くしてほしい。(2件)
- ・音声と展示によって行う形式にして、時間を短縮してはどうか。(1件)
- ・開始時刻に合わせて行ったのに、臨時レクチャーが始まっていたため、待つことになった。(1件)

## 2-6. 西大台利用調整地区の認知手段

西大台利用調整地区の認知手段としては、過去4年間と同様に「人に聞いた」が最も多くなっている。また、平成23年度は「環境省ホームページ」や「大台ヶ原ビジターセンター」の割合が過去4年に比べて高くなっている。

また、今年度から、「ビジターセンターにおける事前レクチャー」の選択肢を設けたところ、5.1%が、事前レクチャーで初めて聞いたと回答した。

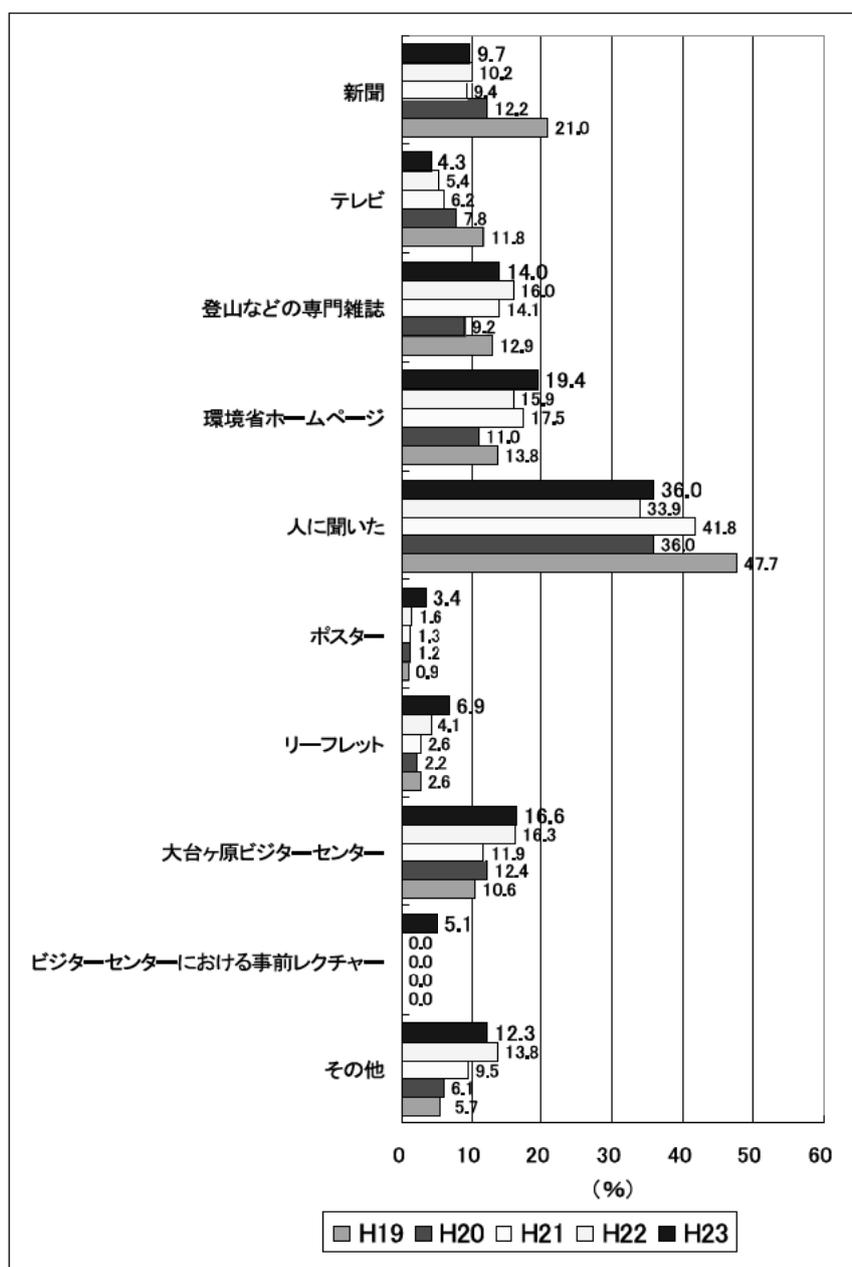


図15 西大台利用調整地区の認知手段（複数回答）

## 2-7. 行動内容

### (1) 入下山時刻

入山時刻は9時台にピークが見られるが、昨年度と比べると、7時台、8時台の入山が増加し、入山時刻がやや早くなった。下山時刻についても、15時台がピークとなり、昨年度と比べて、下山時刻も早くなった。

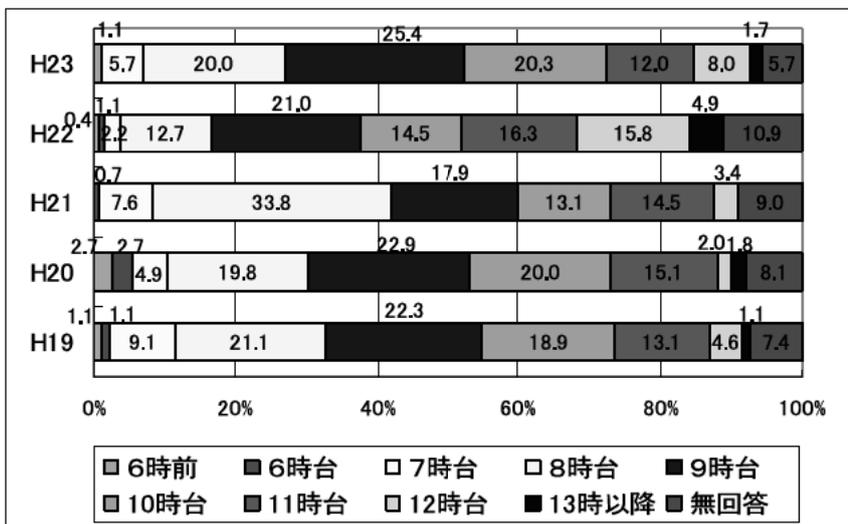


図 16 入山時刻

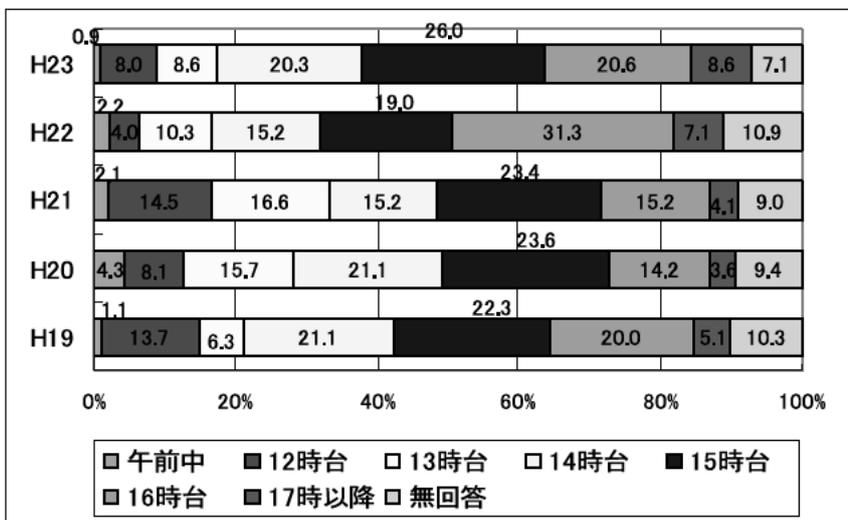


図 17 下山時刻

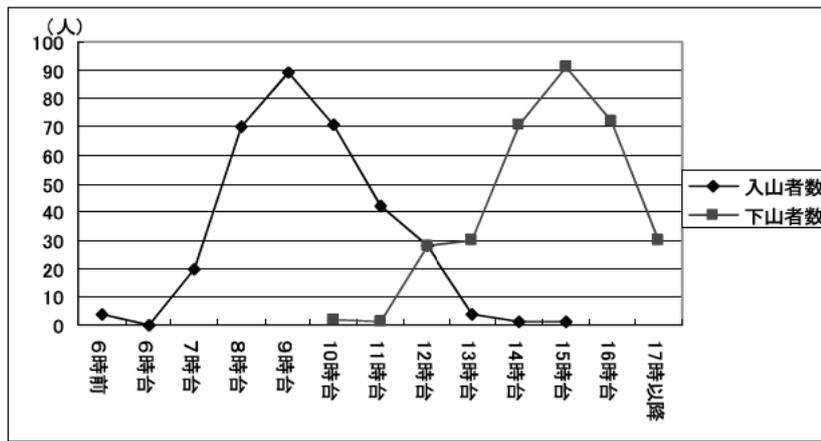
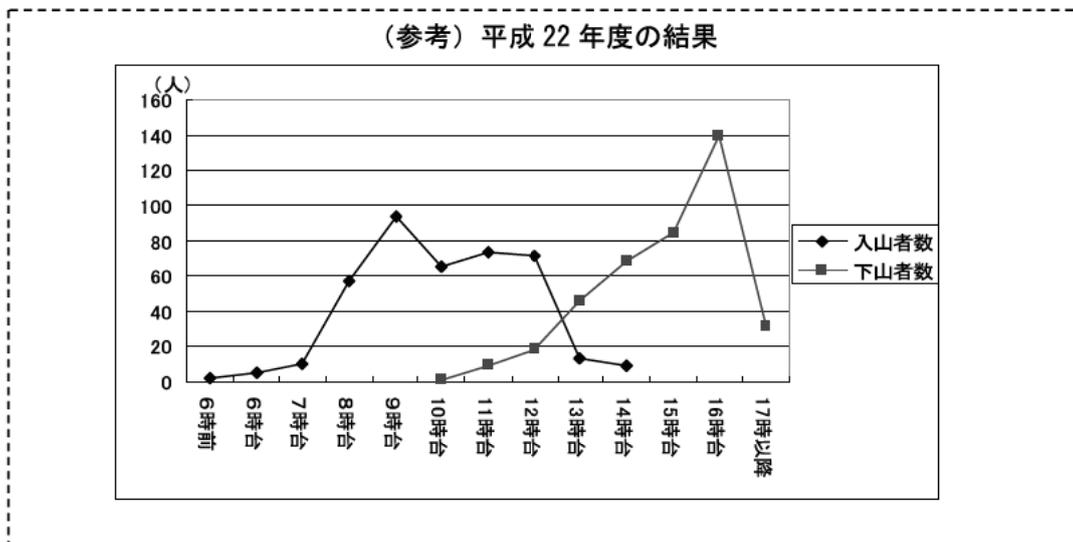


図 18 入下山者数の時間推移



(2) 滞在時間

滞在時間は、4～5時間が 29.4%と最も多く、次いで5～6時間が 29.1%、6～7時間が 20.6%であった。平均滞在時価は、5時間 16分であった。

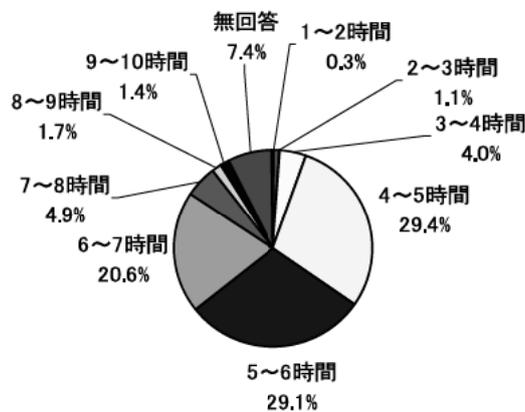


図 19 滞在時間

### (3) ガイドの有無

ガイドの有無については、「ガイドは付けなかった」が 83.1%と大半を占め、「専門的な登山ガイド等を付けた」が 11.4%、「ツアー添乗員などがガイドとして同行した」が 1.1%であった。

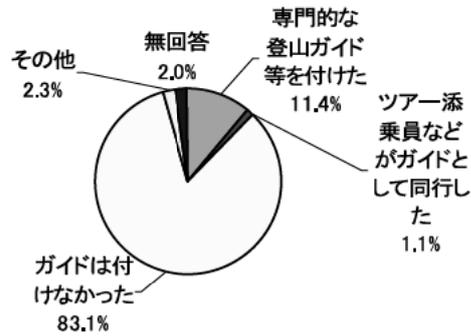


図 20 ガイドの有無

### (4) 行動内容

行動内容については、「西大台歩道を一周」が 90.3%と昨年度よりも増加し、「途中まで行って引き返した」が 4.9%と減少した。「小処温泉から登った又は下った」は 0.3%と低い割合であった。

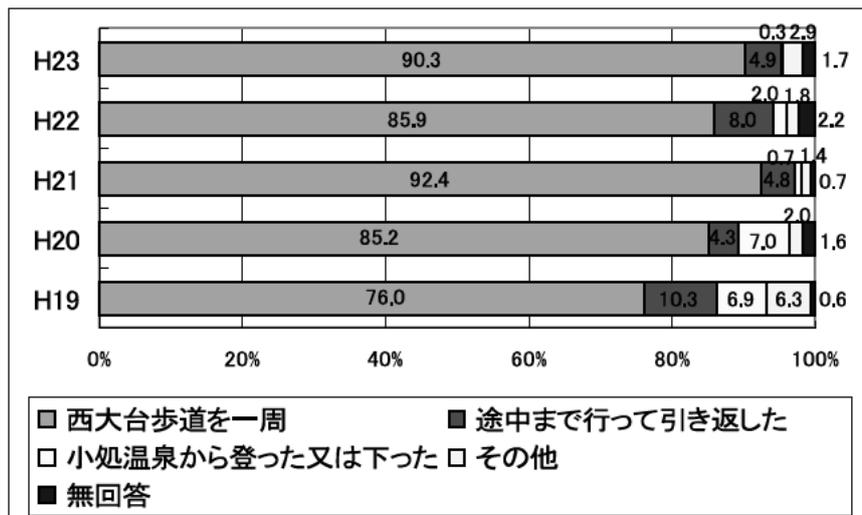


図 21 行動内容

## 2-8. 満足度

「期待以上に良かった」が25.1%、「期待通り良かった」が49.7%で、「よかった」と感じた人の割合は74.9%と5年間で最も多くなっている。

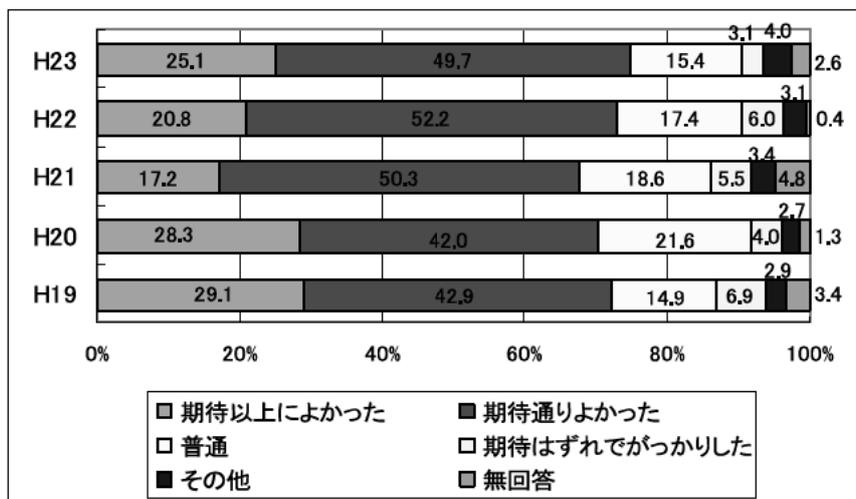


図 22 満足度

## 2-9. 印象に残った自然資源

印象に残った自然資源としては、「コケ」、「原生的な自然」、「沢、せせらぎ」、「ブナ林」などを挙げる人が多く、過去4年間でほぼ同様の結果であった。

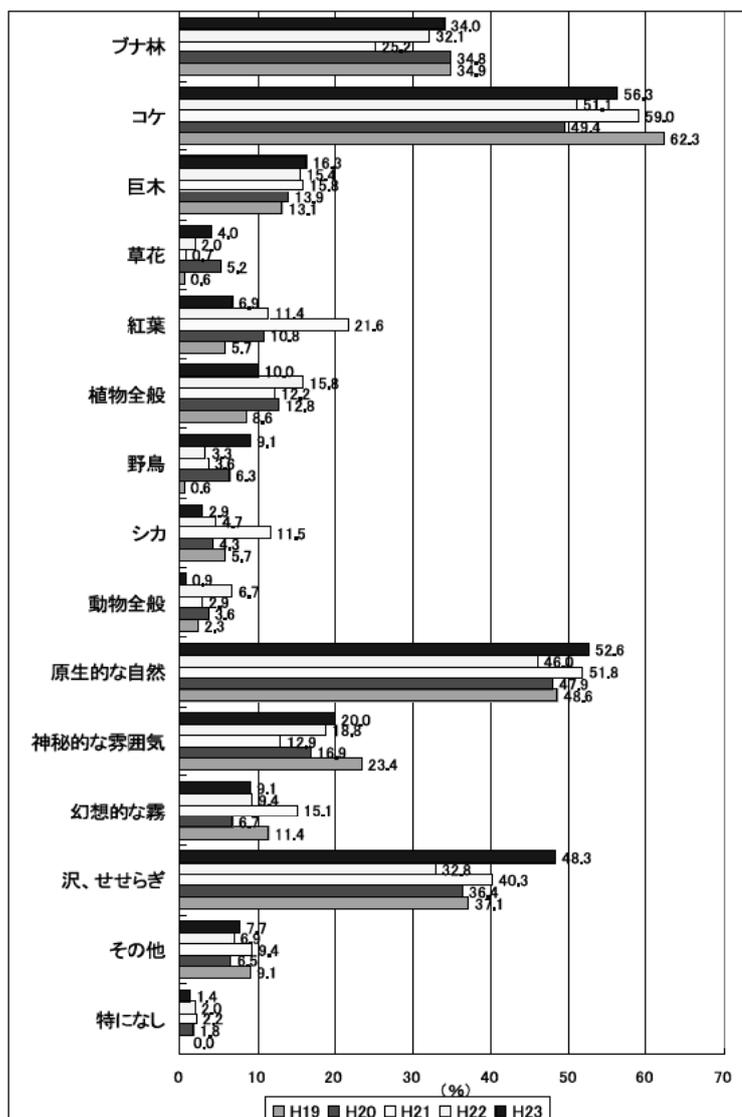


図 23 印象に残った自然資源（複数回答）

## 2-10. 再訪の意向

再訪の意思については、76.3%が「はい」と回答しているのに対して、「いいえ」と回答した人は4.9%で、多くの人が再訪したいと感じている。

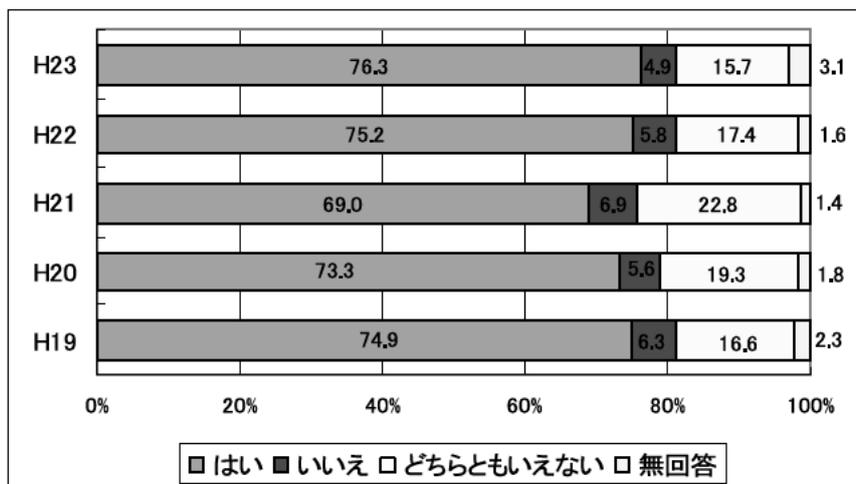


図 24 再訪の意向

## 2-11. 携帯用トイレブースの設置について

携帯用トイレブースの設置については、「必要」が39.4%と、昨年度と比べて減少し、「必要ない」が30.6%、「どちらともいえない」が25.7%と増加した。

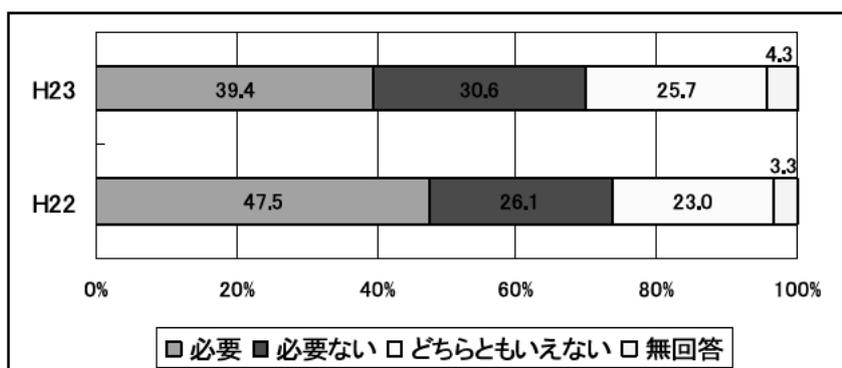


図 25 携帯用トイレブースの設置について

## 2-12. 西大台利用調整地区に関する自由意見

自由意見を整理した結果、以下のように計216件（うち大台ヶ原全体にかかわる意見は17件）の意見が得られた。その内、施設に関する意見が122件と最も多く、特に案内標識やトイレ・携帯トイレブースの充実、歩道の整備に関する意見が多かった。次に、運営に関する意見が55件あり、申請手続きの簡略化やガイドの充実などを求める意見がみられた。また、制度に関する意見が22件あった。

本年度も、運営や施設のあり方に関して、昨年度と同様の意見が寄せられており、案内標識等の拡充やインターネットの活用等による手続きの改善などについて検討していく必要がある。

### ■制度に関する意見（22件）

#### ①利用調整地区に対する賛否（18件）

- ・利用調整地区は必要だと思うので、今後も続けてほしい。（12件）
- ・利用調整地区は、自然保護のために仕方がないと思う。（2件）
- ・利用調整地区は、他の地域でも行うべきだ。（2件）
- ・申請が必要だが、山好きの人には全く苦にならない。（1件）
- ・「自然を守り育てる」意識を持つ効果は大きいと思う。（1件）

#### ②事務手数料（3件）

- ・手数料はちょうど良い。（1件）
- ・手数料が高い。（1件）
- ・手数料が必要な理由を知りたい。（1件）

#### ③上限人数（1件）

- ・上限人数30人は少なすぎる。（1件）

### ■運営に関する意見（55件）

#### ①申請手続き方法（8件）

- ・手続きをもう少し簡略化してほしい。（5件）
- ・当日ビジターセンターで手続きができるようにしてほしい。（1件）
- ・インターネットで手続きが完結するようにしてほしい（1件）
- ・ホームページで手続き方法を詳しく説明してほしい。（1件）

#### ②認定日の変更（4件）

- ・悪天候の場合に認定日を変更できるようにしてほしい。（4件）

#### ③事前レクチャー（13件）

- ・レクチャーで入口や迷いやすい箇所、ロープの重要性などについて、もっと詳しく説明してほしい。（3件）
- ・レクチャーの有効期限を延長してほしい。（2件）
- ・レクチャーの開始時刻を早くしてほしい。（2件）
- ・レクチャーで必要が4時間と聞いたが、実際は5時間かかった。（1件）
- ・レクチャーをもっと厳しくすべきだ。（1件）
- ・レクチャーで天候急変時の対応方法について教えてほしい。（1件）
- ・レクチャー以外に自然解説の映像があるとよい。（1件）
- ・レクチャーのマンネリ化が目立つ気がする。（1件）

**④携帯トイレ（2件）**

- ・携帯トイレの携行を義務づけてはどうか。（1件）
- ・自然保護のために携帯トイレを携行すべきだ。（1件）

**⑤巡視（3件）**

- ・常時入口に巡視員をおくべきだ。（1件）
- ・巡視員が入山者を引率して歩けばどうか。（1件）
- ・名前まではチェックしなくてもよいのではないか。（1件）

**⑥ガイド（8件）**

- ・人数が多くグループを分割する場合に、ガイド一人ではグループ間で不公平が生じる。（4件）
- ・グループ全体の把握やペース配分など、ガイドの役割をしっかりと果たしてほしい。（2件）
- ・ガイドが同行する仕組みにしてはどうか（1件）
- ・道案内だけでなく自然解説もしてほしい。（1件）

**⑦冊子・地図（4件）**

- ・等高線やポイントなどが記載されたもう少し詳しい地図がほしい。（4件）

**⑧入下山の確認（3件）**

- ・入山だけでなく下山の確認も行うべきだ。（3件）

**⑨路線バス時刻の改善（3件）**

- ・入山できる時間が短いので、路線バスの時刻を改善してほしい。

**⑩ストック（2件）**

- ・ストックは使用禁止にすべきだ。（1件）
- ・ストックを使用するなら先端にカバーをつけるべきだ。（1件）

**⑪その他（5件）**

- ・道に迷わないように、ホームページでの注意喚起や、初心者にはガイド同行を義務づけるなどの対策を行ってほしい。（1件）
- ・西大台利用調整地区ガイドを事前に送付してほしい。（1件）
- ・周回方向が自由だと途中で他のグループと出会ってしまう。（1件）
- ・ビジターセンターと宿の情報連携がなく、不便を感じた。（1件）
- ・レクチャーを1度受けたら2度目の入山はもう少し自由にしてほしい。（1件）

**■施設に関する意見（122件）**

**①歩道の不明瞭性（10件）**

- ・ルートが不明瞭で迷いやすい。（10件）

**②誘導ロープ（10件）**

- ・ロープを増やしてほしい。（7件）
- ・ロープは黒ではなく、目立つ色にしてほしい。（3件）

**③標識（50件）**

- ・ルートが分かりにくいので、標識を増やしてほしい。（17件）
- ・標識に番号や距離、時間の表示を付けて、分かりやすくしてほしい。（13件）
- ・現在地が分かるように地図や現在地、経由地を入れるなど、もっと分かりやすい標識にしてほしい。（12件）
- ・標識やロープだけでなく、ピンクテープなどの目印をつけてほしい。（2件）

- ・標識が老朽化しているので、新しくしてほしい。(1件)
- ・沢のガレ場にはペンキで印をつけてほしい。(1件)
- ・配布された冊子と道標が一致していない。(1件)
- ・道案内が少なく不安だった。(1件)
- ・表示を分かりやすくすれば、歩道外が踏み荒らされにくくなる。(1件)
- ・ある程度以上のレベルの人が来ていると思うので、標識等の増設は不要だと思う。(1件)

#### ④解説標識(6件)

- ・開拓跡などの老朽化した解説板を新しくしてほしい。(4件)
- ・樹木や植物の名札があると良い。(1件)
- ・見所に解説標識を設置してはどうか。(1件)
- ・展望台に、大蛇岨等の位置が分かる看板を設置してほしい。(1件)
- ・地区の入口に松浦武一郎碑の案内板を建ててほしい。(1件)

#### ⑤トイレまたは携帯トイレブース(19件)

- ・トイレを設置してほしい。(6件)
- ・仮設トイレを利用調整期間だけ設置してはどうか。(1件)
- ・トイレは綺麗に使用するため有料でも構わない。(1件)
- ・携帯トイレブースは必要。(6件)
- ・携帯トイレブースがあるとよい。(3件)
- ・携帯トイレブースの設置はやむをえない。(1件)
- ・トイレブースを設置する場合は回収方法、使い勝手が良い等、十分な配慮が必要だ。(1件)

#### ⑥歩道の整備(17件)

- ・川を安全に渡れるようにしてほしい。(8件)
- ・ある程度整備したほうが自然保護のためにはよい。(3件)
- ・荒れた箇所は整備してほしい。(2件)
- ・荒廃した箇所は木道にしてはどうか。(1件)
- ・歩行路を厳格に規制すべきだ。(1件)
- ・複線化した部分を修復してほしい。(1件)
- ・必要以上の整備は必要ない。(1件)

#### ⑦その他(10件)

- ・入口の種子落としマットは、もっと効果的なものにすべきだ。(3件)
- ・歩道から見えるガードレールの色や構造に配慮してほしい。(2件)
- ・必要最小限の整備にとどめてほしい。(1件)
- ・西大台にある仕掛け(トラップなどの調査用資材)の目的・方法が分からない。(1件)
- ・現在の出入口だと非認定者が簡単に入れてしまう。(1件)
- ・年々、歩道の幅が拡大しているように感じる。(1件)
- ・樹木や倒木に残る碍子などの歴史的遺構等について説明してほしい。(1件)

### ■その他大台ヶ原全体にかかわる自由意見(17件)

#### ①立入制限等(3件)

- ・東大台も含めて立入制限をするべきだ。(3件)

#### ②マイカー規制等(7件)

- ・混雑期にはマイカー規制をすべきだ。(3件)
- ・大台ヶ原を守るためにはドライブウェイの利用を規制すべきだ。(2件)
- ・マイカーでの入山を規制すべきだ。(1件)
- ・車両規制をすべきだ。(1件)

③その他(7件)

- ・ドライブウェイや駐車場を有料化して、その利益を環境保全に使用してはどうか。(1件)
- ・ドライブウェイを有料化して整備してほしい。(1件)
- ・利用調整の効果に関する調査結果を公表してほしい。(1件)
- ・熟練登山者向けの安価な宿泊施設が駐車場周辺にあるとよい。(1件)
- ・休憩用の避難所を増設してほしい。(1件)
- ・大台ヶ原の歴史を詳しく説明することが自然保護につながるのではないか。(1件)
- ・防鹿柵が気になるが、自然保護のためには仕方ない。(1件)

吉野熊野国立公園  
西大台地区利用適正化計画

平成 23 年 2 月 21 日

近畿地方環境事務所

## 【目 次】

1. 背景	1
1-1 西大台地区の自然の概況	1
1-2 西大台地区の利用の状況	2
1-3 関係法令等の指定及び各種計画の策定状況	3
1-4 保護及び利用の問題点、課題	5
2. 利用の適正化を図るための基本方針	7
2-1 利用適正化計画により達成すべき目標	7
2-2 地区内での利用のあり方に関する基本方針	7
2-3 地区内での自然環境の保護及び管理に関する基本方針	7
2-4 地区内での利用施設の整備及び管理に関する基本方針	7
3. 利用調整地区の指定に関する事項	8
3-1 利用調整地区の名称	8
3-2 利用調整地区の区域	8
3-3 利用調整の期間	8
3-4 その他	8
4. モニタリング、モニタリングの評価及び計画への反映に関する事項	9
4-1 指標等の設定	9
4-2 モニタリングの方法	9
4-3 モニタリングデータの評価	10
4-4 報告及び公表の方法	10
5. 立入り認定の手続きに関する事項	11
5-1 認定基準	11
5-2 立入認定事務の実施方法	13
5-3 注意事項（利用ガイドライン）	13
5-4 利用者の指導	13
6. 自然ふれあいプログラムの提供等に関する事項	14
6-1 自然ふれあいプログラムの作成等	14
6-2 ガイド付き立入の推奨、ガイド人材の育成	14
7. 自然環境の再生、復元等に関する事項	14
8. 利用施設の整備及び管理に関する事項	14
9. 今後の課題	15

## 1. 背景

大台ヶ原は紀伊半島の中心に位置する非火山性隆起準平原であり、国内でも有数の多雨地域にトウヒやブナの森がまとまって形成され、トウヒ群落を主とする「東大台」と、ウラジロモミブナ群落を主とする「西大台」に大別される。近畿の大都市圏から比較的近く、様々な要因により森林生態系の衰退が進行している。かつての苔むす森の林床は乾燥化し、成木の枯死、ササの繁茂などが顕著となり再生に向けた取組みが進められている。西大台においても東大台と同様に森林生態系の衰退の傾向がみられるものの、相対的に良好な自然が残されていることから、森林の衰退を未然に防ぐ必要がある。一方、大台ヶ原に残された貴重な森林は、豊かな自然体験の場を提供するものである。利用マナーの低下がみられる大台ヶ原において、一定のコントロールのもと、質の高い利用を促進する必要がある。

### 1-1 西大台地区の自然の概況

東大台は西大台に比較して標高が高く、およそ標高 1550m以上の区域には亜高山針葉樹林帯のトウヒ群落が分布しており、その下部に位置する西大台には、冷温帯性広葉樹林のウラジロモミブナ群落が広く分布している。西日本の太平洋側においてブナが優占する森林がまとまって見られるのは大台ヶ原・大峯山脈において他にはなく西大台のウラジロモミブナ群落は貴重な森林である。

#### (1) 地形・気象

大台ヶ原は台高山系の南端に位置し、日出ヶ岳を主峰とした標高 1,300m～1,695m にわたる地域で、非火山性隆起準平原であり、日本で希少な地形として注目されている。この台地状の地形の南側などには大蛇峠、千石峠などの断崖絶壁が形成され、台地から落ちる東ノ滝、中ノ滝、西ノ滝は東ノ川に流れる。

また国内有数の多雨地域で、年間降水量は約 4,800mm と多い。

#### (2) 植生

大台ヶ原の植生は、主に亜高山性針葉樹林と冷温帯性広葉樹林から成立している。

そのうち標高 1,550m以下の西大台は、西日本でも貴重な太平洋型ブナの優占する冷温帯性広葉樹林がまとまってみられる地区である。

#### (3) 生物相

大台ヶ原では以下 ①～⑥ に示す動植物が記録確認されており、その中でも特に西大台は、生物多様性の優れた地区として注目されている。

##### ① 植物

日本有数の多雨地帯であり、湿潤で冷涼な気候が特徴で、冷温帯性植物、着生植物、岩崖性植物が豊富であり、北方系の遺存植物や山岳性の植物が多い。また岩場には、オオダイトウヒレンやハクロバイが生育している。これまでにコケ類を含め、45科 860種が記録確認されている。

##### ② 哺乳類

ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンジカなどの大型哺乳類をはじめ、レッドデータブックでは準絶滅危惧種とされ国の天然記念物にも指定されているヤマネや分布上注目されるヤチネズミ、クロホオヒゲコウモリやノレンコウモリなどのコウモリ類など、これまでに合計7目15科37種が記録確認されている。

### ③ 鳥類

ルリビタキ、メボソムシクイ、ビズイなど主に中部地方以北で繁殖する鳥類の西日本での数少ない繁殖地となっており、これまでに11目32科97種が記録確認されている。

### ④ 爬虫類

ジムグリやヤマカガシを含む2目5科9種が記録確認されている。

### ⑤ 両生類

大台ヶ原が新種記載の際に模式産地となっているオオダイガハラサンショウウオやナガレヒキガエルなど2目6科17種が記録確認されている。

### ⑥ 昆虫類

昆虫類は種類が多いため全貌は明らかになっていないが、大台ヶ原を代表に紀伊半島の山地にしかな産しないものとして、オオダイリヒラタコメツキやセダカテントウダマシなどがあげられる。また、大台ヶ原が模式産地となっており、その名に「オオダイ」を冠している種も少なくない。

## 1-2 西大台地区の利用の状況

大台ヶ原は年間およそ25万人の利用者数を記録する近畿圏でも有数の山岳観光地である。

歴史的には大峯山脈が霊場として多くの信仰登山者を集めてきたのに対し、大台ヶ原は地形や気象条件の厳しさから、明治以前は人が近づくことがほとんどない未開の地であった。

大台ヶ原の利用は、明治時代の信仰、修行の場としての利用がはじまりであった。その後、大正時代から登山者が増加し始め、登山の対象としての利用が主流となったと考えられる。

昭和11年に吉野熊野地区が国立公園に指定され、昭和15年に大台ヶ原地区が特別地域に指定された。昭和36年の県道大台ヶ原公園川上線（通称：大台ヶ原ドライブウェイ）開通後アクセスが容易になり、登山から観光の対象へと変貌していった。

現在、最も典型的な大台ヶ原の利用形態は、マイカーまたは観光バスで山頂部までアクセスし、そこを起点に日出ヶ岳、正木ヶ原、牛石ヶ原、大蛇ヶ原などを有する「東大台」を周回する日帰り利用である。西大台にも駐車場を基点に周回利用できる歩道が整備されているが、知名度の低さや迷いやすいなどのイメージにより比較的低密度の利用にとどまっている。山麓部との間を登山する利用者も少数である。

大台ヶ原は、5月、8月、10月に利用のピークが見られ、平日に比べ土日祝日に利用が集中する。

1日あたり平均入山者数（平成16年11月及び平成17年4月～10月のカウンター調査結果。主な入山口通過人数の合計）は西大台で23人/日、東大台で253人/日である。「西大台」の利用は大台ヶ原全体の約1割程度である。1日あたり最大入山者数は、西大台で169人/日、東大台で1,939人/日であった。

利用者へのヒアリング調査（平成17年度実施）では、西大台について、東大台と比べ利用圧が低く、自然の中の静寂性が保たれていることを評価する声が多く聞かれるものの、①駐車場を起点に比較的気軽な日帰り利用ができること、②東大台とは異なる魅力をもった自然を有すること、③すでに

旅行会社のバスツアーの対象となっていることなどから、今後利用圧が増加する恐れがある。

### 1-3 関係法令等の指定及び各種計画の策定状況

#### (1) 関係法令等

##### ① 自然公園法

西大台地区の大部分は吉野熊野国立公園の特別保護地区に指定されている。大台ヶ原ドライブウェイ終着点の周辺は、利用拠点として集団施設地区（第2種特別地域）に指定されている。

##### ② 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律

西大台地区の全域が国指定大台山系鳥獣保護区特別保護地区に指定されている。

##### ③ 土地所有現況

西大台地区はほぼ全域が環境省所管地である。奈良県有地（集団施設地区）、道路敷（県道大台ヶ原公園川上線）、村有地、民有地等に隣接する。

#### (2) 各種計画等

##### ① 吉野熊野国立公園（吉野地域）管理計画（平成13年12月）

本利用適正化計画の対象を含む吉野地域の管理計画において、利用に関する基本方針は以下のとおり、規定されている。

自然特性を活かした山岳地域としての自然探勝型利用を推進し、利用者の季節的集中にともなう自然環境への影響の軽減等の検討を続けることが示されている。

大台ヶ原では、山頂付近まで車道が開通しシャクナゲの開花、夏季、紅葉の時期を中心に多くの人が訪れる地域である。この地域のすぐれた自然を保護しつつ、自然特性を活かした山岳地域として自然探勝型利用を推進する。また、当該地域は貴重な自然の残る山域であるが気象条件も厳しいことから、利用者に対し自然環境保全や安全対策についての普及啓発を図る。なお、利用者の季節的集中にともなう自然環境への影響の軽減及び快適な利用の増進のための検討を継続して行う。

また、保全方針のなかで、東大台地区のトウヒ林は「当該地区に集中する利用者による自然への影響を軽減するため、周辺環境との調和を図りながら歩道等既存施設の充実と利用者に対する普及啓発を図る」、西大台地区のブナ林は「多数の利用者が入り込むことのないよう、積極的な施設の整備は行わない」と定め、公園事業取扱方針のなかでは、西大台の歩道を「登山道」、東大台の歩道を「自然観察路」と位置づけるなど、東大台と西大台を区分して保全または整備を図るよう定められている。

## ② 大台ヶ原自然再生推進計画

大台ヶ原では昭和 61 年度に「大台ヶ原トウヒ林保全対策検討会（平成 12 年度より大台ヶ原地区植生保護対策検討会と改称）、平成 13 年度に「大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会」を設け、様々な森林保全対策事業を進めてきたが、従来の森林保全対策に加え、利用対策の充実による人為的インパクトの軽減や周辺地域との関連を含めた総合的な視点の必要性から、平成 14 年「大台ヶ原自然再生検討会」を設置し、およそ 2 年間にわたる調査と検討の結果、「森林生態系保護再生計画」「ニホンジカ保護管理計画」「新しい利用のあり方推進計画」の 3 つの計画からなる「大台ヶ原自然再生推進計画」を平成 17 年 1 月に取りまとめたところである。

新しい利用のあり方推進計画において、大台ヶ原では、利用の「量」の適正化と「質」の改善を通じ、利用による自然環境への影響を極力抑えるとともに、質の高い自然体験・環境学習を可能とすることにより、大台ヶ原を「新しいワイズユースの山」とすることを目的とすることが掲げられている。

そして、本計画の実現を図るための基本方針として、①「マイカー規制の実施ーパーク&シャトルバスライドー」、②「より良好な森林地域の保全の強化ー利用調整地区の設定」、③総合的な利用メニューの充実（登山道・自然観察路の充実、キャンプ指定地の設置、山上駐車場周辺の活用、自然解説・自然体験プログラムの充実、情報提供・情報発信の充実、ビジターセンター機能の充実）が設定された。

その後大台ヶ原自然再生推進計画は、平成 21 年 3 月に前計画の実施状況等に係る評価を踏まえて第 2 期計画としてまとめられ、当面 5 年程度で実施する取組として、①「適正利用に係る交通量の調整ーマイカー規制等の実施ー」、②「より良好な森林地域の保全と質の高い利用の提供ー利用調整地区の運用ー」、③「総合的な利用メニューの充実ー特に利用の質の改善のための条件整備（詳細メニューは前計画と同）ー」が設定された。

本利用適正化計画は、大台ヶ原自然再生推進計画のうち、3. 新しい利用のあり方推進計画（3）計画内容 2）「より良好な森林地域の保全の強化ー利用調整地区の設定」を受けて、その利用の適正化を図るに当たって、様々な関係者による合意形成の下で利用の調整等に関する各種事項を定めることにより、公園利用の適正化を円滑に進め、利用調整地区の風致景観を維持し、かつ、より深い自然とのふれあい体験を提供することを目的として作成されたが、前記のとおり第 2 期大台ヶ原自然再生推進計画がまとめられたことから、一部変更を行ったものである。

## 1-4 保護及び利用の問題点、課題

### (1) 大台ヶ原の課題について

東大台の正木峠を中心とした地区では、昭和30年代の伊勢湾台風等の大型台風による大量の風倒木とその搬出を契機に、林冠開放による林床の乾燥、コケ類の衰退、ミヤコザサの分布域の拡大が始まった。また、県道大台ヶ原公園川上線の開通に伴う公園利用者数の増加やミヤコザサ現存量の増加に伴うニホンジカ個体数の増加もミヤコザサ以外の林床植生の衰退を加速化した。これらの結果、倒木更新など亜高山性針葉樹林の森林更新に必要な条件が悪化し、森林の衰退が始まった。さらに、同時期に周辺部においても伐採面積の拡大によってニホンジカの餌となる植生の増加などその好適生息環境が生まれ、周辺部を含めニホンジカ個体数が増加した。周辺部の一部の個体はミヤコザサが拡がりつつある大台ヶ原に移動し、さらに大台ヶ原のニホンジカ個体数が増加したため、樹木の後継樹や樹皮にまでシカによる採食が目立つようになった。これらの把握しやすい要因に加えて、十分に解明されていない要因も含む複合的な要因が森林植生の衰退をもたらしていると考えられる。

### (2) 西大台地区の課題について

東大台において亜高山性針葉樹林を中心に森林の衰退が顕在化する一方、比較的健全な自然林が残っているとされている西大台の冷温帯性広葉樹林においても下層植生や後継樹の減少などが確認されている。

また、施設整備を積極的に行っていない西大台においては、定められた歩道以外のルートからの立入り、ペットの持ち込み、ゴミ不法投棄等の行為も確認されている。自然環境に悪影響を与える行為の禁止、注意事項の徹底により利用マナーを向上させる必要がある。

#### ① 森林の衰退の兆候

西日本でも貴重な太平洋型ブナが優占する冷温帯性広葉樹がまとまって分布しており、利用密度は低く原始的な雰囲気を経験できる地区であるが、森林衰退の兆候がみられる。

自然再生推進計画では大台ヶ原の植生を7つのタイプに区分し、西大台に典型的な「タイプVI」、「タイプVII」についてはいずれも樹冠を構成する樹種は比較的健全であるが、後継樹がほとんど生育していない点で森林の更新過程に問題が生じていると評価している。

17年度に実施した樹幹着生の蘚苔類調査では、乾燥耐性の強い種の侵入が確認されている。

#### ◆タイプVI（ブナースズタケ密）→損なわれている過程：「後継樹」

- ・林冠構成樹種の種子散布がある。
- ・後継樹はほとんど生育していない。実生は生育しているが少ない。
- ・下層植生はスズタケが優占しており、スズタケの稈高が高い。

#### ◆タイプVII（ブナースズタケ疎）→損なわれている過程：「後継樹」

- ・林冠構成樹種の種子散布がある。
- ・後継樹はほとんど生育していないが、実生は生育している。
- ・下層植生はミヤマシキミが優占しており、スズタケはほとんど生育していない。

#### ② 利用圧の増加傾向

利用圧増加による影響を受けやすく、既に歩道の洗掘や複線化、休憩に利用される場所での下層

植生の衰退、裸地化などの影響が確認されている。

現況においては自然観察路として整備されている東大台に利用者が集中しているため、①駐車場を起点に日帰り利用ができること、②自然体験の場としてポテンシャルが高いこと、③すでに旅行会社のバスツアーが増えていることなどから、今後利用圧が増加する恐れがある。

### ③ 利用マナーの低下

歩道外への立入り、定められた歩道以外のルートからの立入り、ペットの持ち込み、ゴミ不法投棄等森林生態系に影響を及ぼすおそれの高い行為がみられる。また、動植物、魚類の盗採の行為についても指摘されている。

### ④ 自然体験の質の低下

ピーク期には過半数の利用者が混雑感を抱いており、原生的な雰囲気や静寂が確保されていないことがある。利用者の増加により喧騒が持ち込まれ、享受できる自然体験の質が低下するおそれがある。

## 2. 利用の適正化を図るための基本方針

### 2-1 利用適正化計画により達成すべき目標

相対的により良好な森林が存在し、質の高い自然とのふれあい体験が可能な西大台地区において、利用調整地区を適正に運用し、自然環境への負荷の増大を防ぐとともに、より質の高い自然体験を享受する場として持続的な利用を図り、将来世代に自然環境を継承することを目標とする。

### 2-2 地区内での利用のあり方に関する基本方針

- ・ 利用者が自ら自然とふれあう体験を通して自然の持つ雰囲気や五感を味わうことを基本姿勢とする。
- ・ 大台ヶ原の豊かな自然環境を体験するにふさわしい静寂性が確保され、自然環境の保全に影響が生じない程度の利用密度に誘導する。
- ・ 利用による自然環境の影響を自然の回復力の範囲にとどめるため利用人数の調整を行う。利用人数の調整は、各種データやモニタリング調査を踏まえたものとする。
- ・ より質の高い自然体験を享受するため、地域の自然等を熟知し、解説するガイドなどが同行することを推奨する。
- ・ 立入り者は、自然環境に負荷を与えずに持続的な利用を図るために設定されたルールのもと、立入り後は利用者個人の自己責任のもとで行動する。
- ・ 立入り者は、立入りの前に大台ヶ原ビジターセンターにおいてレクチャーを受講し、利用のルール、注意事項について理解する。
- ・ 西大台周回歩道を中心とする自然探勝以外の立入り者（登山に際しての通過利用、<sup>とうはん</sup>登攀等）についても利用調整の対象とし、一定のルールのもと適切に利用する。

### 2-3 地区内での自然環境の保護及び管理に関する基本方針

- ・ 西大台地区の自然環境の保護に関しては「大台ヶ原自然再生推進計画」に基づき、保護・再生の取組みを推進するとともに、現状を悪化させることのないよう適切に管理する。
- ・ 過剰利用、不適切な利用や自然災害などによる劣化・荒廃の状況について、巡視や情報収集により常に把握するとともに、利用調整の効果について検証するため指標種等のモニタリング調査を継続的に実施する。

### 2-4 地区内での利用施設の整備及び管理に関する基本方針

- ・ 歩道や標識等の施設の整備は必要最小限とする。各種の情報の提供や事前レクチャー、地区内の状況を熟知したガイドの同行を推奨し、原始的な雰囲気、静寂を保持する。
- ・ 「自己責任」意識の普及啓発を行い、安全な利用を促進する。
- ・ 現場において境界線を明確化し、利用調整地区の所在、行為規制等を周知するための標識、制札等について、隣接する土地所有者、関係機関の協力のもと、設置する。

### 3. 利用調整地区の指定に関する事項

#### 3-1 利用調整地区の名称

西大台利用調整地区

#### 3-2 利用調整地区の区域

##### (1) 区域

奈良県吉野郡上北山村大字小椽字大台山の一部

地理的あるいは施設の条件から利用者の出入りをコントロールし適切に管理することが現実的に可能な区域として別図の区域を指定する。

##### (2) 地区の区域を示す標識等

利用調整地区の存在を利用者に周知するため、利用調整地区の概要、区域などを示す標識、立入りに際し手続きを要することなどを掲示する制札、境界線を明確にするための杭等を設置する。

既存施設の取扱いも含め、野生動物の生息や景観に配慮してこれら施設を整備する。

#### 3-3 利用調整の期間

大台ヶ原の利用は、アクセス道である県道大台ヶ原公園川上線の開通している開通期間にほぼ一致することから、4月から11月までの期間を対象とする。

なお、具体的な月日については、気象条件等をふまえた県道大台ヶ原公園川上線の状況や、大台ヶ原の利用実態等を勘案し、年度ごとに定める。

#### 3-4 その他

○利用調整地区の指定の広報及び周知の方法

利用者はもとより地域住民、事業者を含め、利用調整地区の設定および考え方について広く情報発信し、周知の徹底を図る。

利用調整地区に立入る際に手続きが必要であることを周知するためパンフレットを作成し、ビジターセンターを中心に情報発信するほか、関係機関の協力を得て、大台ヶ原を紹介するガイドブックや地図、ポスターへの掲載、関係機関のホームページにおける情報発信など多様なツールを活用し幅広く情報を提供する。

## 4. モニタリング、モニタリングの評価及び計画への反映に関する事項

大台ヶ原においてはこれまで、自然災害等による歩道の通行止め措置などを除き、立入り人数の制限等を実施した実績はなく、入込み数や利用者層も社会情勢の変化や時代背景、当該年の気象条件等により大きく変動してきた。

利用調整の効果について正確に予想することは極めて困難であり、目標設定とその達成状況に応じ、計画内容の適切な見直しを行っていく。

このことを十分に勘案し、自然公園法施行令第13条に規定する認定基準等は理想を掲げつつ現実的な数値を設定する。当面は極端な制限は行わず、モニタリングにより検証していく中で段階的に完成度を高めていくこととし、モニタリング、評価及び計画への反映が継続的に実施される仕組みを内在させていく。

一方、大台ヶ原自然再生推進計画に基づいて大台ヶ原の自然再生を目指した取組みが展開されており、これら取組みについてモニタリングが実施されていることから連携し、自然環境や利用に関するデータを活用していく。

その上で、利用調整地区の効果を評価するための指標等の設定、モニタリングの方法、データの評価、報告及び公表の方法等について検討していく。

### 4-1 指標等の設定

#### (1) 自然環境の状態

大台ヶ原における利用による自然環境への影響については、これまで自然再生の取組みの中で、踏み込みに強い植物種の分布や外来生物の分布、人や車の通過数と出現鳥類数の関係などが調査されている。平成17年度から蘚苔類による利用影響の把握の可能性についても調査が行われている。

利用調整地区の指定にあたり、利用圧との関係、指標生物等によるモニタリング項目については、専門的検討を経て設定する。

- ・ 踏み込みに強い植物種の分布
- ・ 指標生物種の生息状況
- ・ 裸地面積や歩道の複線化、洗掘状況

#### (2) 利用のあり方

利用に関する基本的なデータとして、利用人数や利用者の属性等に関し調査を継続する。

さらに、利用者の自然環境や利用密度に関する満足度、自然の理解度、利用調整地区制度への意見等の項目を設定する。

- ・ 利用人数、利用者層等（カウンターデータの分析、立入認定者データの分析）
- ・ 利用者の動向（自然環境や利用密度への満足度、自然の理解度、利用調整地区への意見等）

### 4-2 モニタリングの方法

大台ヶ原自然再生評価委員会との連携のもと、具体的なモニタリングデータの種類、収集者、収集時期、頻度および方法について設定する。

#### 4-3 モニタリングデータの評価

大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会の各部会等において評価を行い、必要に応じ利用適正化計画の変更を行う。

#### 4-4 報告及び公表の方法

モニタリングデータおよびその評価結果と利用適正化計画の変更案については、大台ヶ原自然再生のホームページへの掲載のほか、広範かつ迅速に周知を図ることとする。

なお、希少動植物の分布情報等の取扱いについては注意する。

## 5. 立入り認定の手続きに関する事項

### 5-1 認定基準

「量の適正化」と「質の改善」を両輪として新しい利用のあり方を推進する観点から、認定基準において禁止事項や注意事項などの遵守と、人数の上限設定等の利用の調整の方法を定める。

当面は、人数、禁止行為、注意事項について定め、今後、モニタリングの結果や管理運営の実態等を踏まえ、必要に応じ追加・修正を行う。

#### (1) 人数

「1日あたりの総利用者数の上限」と「1団体あたりの人数の上限」を設定し、特定の時期における利用の集中を緩和し自然環境の荒廃を防ぐとともに、豊かな自然を体験するにふさわしい静寂性の確保を目的とし適正な利用密度へ誘導する。

なお、今後の課題として、特定の時間帯における集中を避けるため、時間帯別の上限を設定することや、区域ごと、利用形態ごと（周回歩道利用、登山利用等）に利用者数の上限を設定することなどを検討していく。

##### ① 1日あたりの総利用者数の上限

1日あたり総利用者数の上限を設定し、利用時期を分散することで（土日祝日から平日へ、利用集中期から閑散期へ等）、年間を通した利用人数の平準化を図る。設定人数については、前年度の利用状況調査のモニタリング結果等をもとに、西大台地区利用適正化計画検討協議会において年度ごとに定める。

当面、以下の観点から上限の設定を行う。

- ・利用集中期（春期、夏期、秋期）を中心に極端に集中している土日祝日の利用者数を抑制する。  
年間を通して100人を超える日が10日程度あることから、まず極端な集中による悪影響を回避する。）
- ・平日は、原生的な雰囲気と静寂が確保されていることから、これを保持する。  
ただし、利用集中期（春期、夏期、秋期）を中心に比較的利用の多い平日については、土日祝日から移行することも想定し、考慮して上限を設定する。なお、利用集中期の具体的な月日については、年度ごとに定める。

利用集中期の土日祝日：100人

利用集中期の平日、利用集中期以外の土日祝日：50人

利用集中期以外の平日：30人

##### ② 1グループあたりの人数の上限

一時に大人数が利用することによる自然環境への影響を抑えるとともに、静寂な雰囲気の中で大台ヶ原の自然を味わうことができるように誘導する。

現地において声の届く範囲、人の姿の見える範囲などを考慮し、無理なくガイドの説明などを聴くことができる人数として、1グループあたりの人数の上限を10名とする。

## (2) 禁止行為その他の基準

利用調整地区に共通の禁止事項は自然公園法施行規則第13条の6第3号において以下の行為が定められている。なお、必要に応じ追加等を行う。

### 全ての利用調整地区に共通の禁止事項

項目	自然公園法施行規則（第十三条の六第三号）の表現
生きた動植物の持ち込み	生きている動植物（食用に供するもの及び身体障害者補助犬法（平成十四年法律第四十九号）第二条に規定する身体障害者補助犬を除く。）を故意に持ち込むこと。
野生動物への給餌	野生動物に餌を与えること。
野生動物に影響をおよぼす撮影、観察等	野生動物の生息状態に影響を及ぼす方法として、国立公園にあつては環境大臣が、国定公園にあつては都道府県知事が利用調整地区ごとに定める方法により撮影、録音、観察その他の行為を行うこと。
ごみ等の廃棄	ごみその他の汚物又は廃物を捨て、又は放置すること。
球技等の野外スポーツ	球技その他これに類する野外スポーツをすること。
花火、拡声器等の使用	非常の場合を除き、屋外において花火、拡声器その他これらに類するものを用い、必要以上に大きな音又は強い光を発すること。

## (3) 注意事項

利用者が行うべき注意事項は自然公園法施行規則第13条の6第4号において定めることになっており、以下のとおりとする。なお、必要に応じ追加等を行う。

また、採集並びに捕獲のための道具（網、竿等）およびこれに準ずるものの持ち込みをしないことについては、西大台利用調整地区は全域が国立公園特別保護地区に指定されており動植物の採捕は規制されているが違法行為等も報告されていることを踏まえ定めるものである。

- ・ 自己の責任における安全管理の徹底を図るとともに、あらかじめ、必要な情報の入手及び理解並びに技術の習得に努めること。
- ・ 十人を超える団体で利用しないこと。
- ・ 網、竿その他動植物の捕獲及び採取のための道具を持ち込まないこと。
- ・ 利用調整地区への立入りの前に、大台ヶ原ビジターセンターにおいて近畿地方環境事務所が行う事前レクチャーを受講すること。ただし、申請に係る年度内において、既に当該レクチャーを受講している場合は、この限りではない。
- ・ 利用調整地区への立入り時に得られた自然環境及び公園の利用に関する情報を近畿地方環境事務所に報告するよう努めること。
- ・ 代表者は、自身の監督の下で利用調整地区に立ち入る利用者の名簿を作成し、申請時に提出すること。

注意事項を周知し、遵守させるため、注意事項等を記載した利用の手引等文書の作成及び事前配布、ビジターセンターにおける現場のリアルタイム情報の提供等を実施する。

## 5-2 立入認定事務の実施方法

### (1) 認定を行う事務所の場所

自然公園法第25条第1項の規程に基づき別途指定する指定認定機関の所在地において行う。  
なお、この所在地は、可能な限り利用調整地区所在の周辺市町村内とする。

### (2) 受付の方法および人数の調整方法

申請は、郵送又は窓口において行う。申請にあたって、申請書の他、事務手数料（1人1000円を上限として定める額）を納入する。具体的な方法については、申請要領を別途定める。なお、インターネットによる申請の受付は、指定認定機関の通信環境の整備及び事務実施体制状況に応じ、順次導入を検討していく。

なお、申請は、先着順に受付を行い、受付順に審査を行う。

### (3) 立入認定証の様式及び交付方法

立入認定証には、利用調整地区の名称、立入認定証の有効期間（立入可能な日）、立入認定を受けた者の氏名、その他必要な事項を記載した様式とする。

審査終了後、立入認定証の交付とともに、事前に大台ヶ原ビジターセンターにおいて本人確認を行い、レクチャーを受講する必要がある旨、郵送にて通知する。

## 5-3 本人確認、事前レクチャー等

立入認定証の交付を受けた者は、立入認定証を持参して、立入りの前に大台ヶ原ビジターセンターにおいて認定者本人である確認を受けた上、事前レクチャーを受講し、現地の状況や立入りにあつての利用のガイドラインについて理解した上で立ち入らなければならない。

事前レクチャーは、大台ヶ原ビジターセンターにおいて、実施する。

同一年度内に限り受講歴のある者は、レクチャーを免除することができる。（ただし、本人確認は必要）

## 5-4 利用者の指導

大台ヶ原ビジターセンターを拠点とし、西大台利用調整地区の指定について周知徹底を図るとともに、立入り者からの報告のほか、通常の巡視活動において地区内の状況を把握するなど情報収集に努める。

大台ヶ原地区パークボランティアほか関係者の協力を得て、巡視を実施し、リアルタイムの自然の情報や歩道の現況、危険箇所の有無など、ビジターセンターの情報提供やレクチャーの内容に反映させて利用者への指導を適切に行う。

### ○巡視計画

巡視、指導等の箇所、頻度等を定めた巡視計画を年度ごとに定める。

西大台地区利用適正化計画検討協議会の構成員はそれぞれの役割に応じ巡視、指導等を行うとともに、年に数回、協議会主催の合同パトロールを実施する。

通常の巡視ルートは、歩道沿いの状況把握を中心に行うが、歩道からはずれた場所の踏み後の状況や、県道大台ヶ原公園川上線沿線などから手続きをしないで立入る者がいないか監視する。

巡視のポイントについては所定の様式を定め記載するものとし、事前に巡視実施者は、計画書を吉野自然保護官事務所に提出する。

実施日は利用者数の多い土日祝日を含め最低週2日程度は行うこととし、現地の状況を熟知した者を含む2名で行うことを原則とする。

春期、秋期の土日祝日などは、協議会により合同パトロールを実施するなど巡視の体制を強化するとともに、大雨、台風通過後など気象変化、季節変化に応じて実施する。

## 6. 自然ふれあいプログラムの提供等に関する事項

### 6-1 自然ふれあいプログラムの作成等

西大台利用調整地区を案内するガイド等に向けた情報や研修の機会等を提供する。

さらにより深い自然体験のために、大台ヶ原の自然を熟知したガイドによる自然ふれあいプログラムとして推奨すべき興味地点、コース等をまとめ、ガイド付き限定で利用することも将来に向けた課題として検討する。

### 6-2 ガイド付き立入りの推奨、ガイド人材の育成

利用マナーを徹底し、利用の安全を確保するとともに、利用者により質の高い体験を提供するためには、大台ヶ原の自然を熟知したガイドの同行が効果的であることから、大台ヶ原の自然等を熟知した者の随行を推奨する。

ただし、現状では、大台ヶ原におけるガイド制度が未整備であることから、ガイド推奨のための仕組みの整備と人材育成を促進すべく関係機関間において協議していく。

## 7. 自然環境の再生、復元等に関する事項

大台ヶ原自然再生推進計画に基づき、自然環境の再生、復元に資する取組みを推進する。

## 8. 利用施設の整備及び管理に関する事項

現場において境界線を確認し、利用調整地区の所在、行為規制等を周知するための標識、制札等について、隣接する土地所有者、関係機関の協力のもと、設置する。

大台ヶ原駐車場や登山道からの入り口部分にはゲートを設置するとともに、境界線沿いには制札等を設置する。また、侵入の容易な箇所を中心に柵を配置し、県道大台ヶ原公園川上線沿い等については重点的に整備を進める。

なお、設置にあたっては野生動物の生息や景観に配慮する。

## 9. 今後の課題

### ○今後の課題

本利用適正化計画は、現時点での知見、データ等をもとに検討されたものであるが、モニタリングの結果や実際の管理運営の状況等をふまえ、必要に応じ追加・変更等を行うものである。

西大台利用適正化計画検討協議会における議論において中長期的な事項も含め、以下の課題について今後さらなる検討を行う。

#### (1) 利用調整地区の区域について

森林等の自然環境が同等の資質を有している県道大台ヶ原公園川上線北側（三津河落山斜面）など周辺の森林についてもモニタリングを実施し、今後の保護方策の検討を進める。

#### (2) 利用適正化の手法について

本利用適正化計画においては「1日あたりの総利用者数の上限」と「1団体あたりの人数の上限」を設定し、利用適正化をはかることとしている。

モニタリングの結果や利用の状況等を踏まえ、特定の時間帯における集中を避けるため、時間帯別の上限を設定することや、区域ごと、利用形態ごと上限設定等の組み合わせも検討していく。

また、人数以外の認定基準についても必要に応じ追加・修正を行う。

#### (3) ガイド推奨の仕組みについて

現状では、大台ヶ原においてはガイドを推奨する制度が未整備であることから、関係機関の協力のもと、ガイド推奨のための仕組みのあり方について早急に検討する。さらに、ガイド人材を養成するための支援方策について検討する。

#### (4) 利用する区域について

利用調整地区内においては現行の公園計画の歩道を利用することを原則としている。

より深い自然体験のため、上記のガイド付きに限定し、自然ふれあいプログラムとして利用可能な区域等についても検討する。

#### (5) その他

し尿の問題、野生動物に影響をおよぼす方法による撮影、観察等の制限、火器の使用等については、その取扱いについて検討していく。